

**令和7年度
第2回 三重県河川整備計画
流域委員会**

**二級河川 江川水系
(第2回流域委員会)**

令和7年6月6日





目次

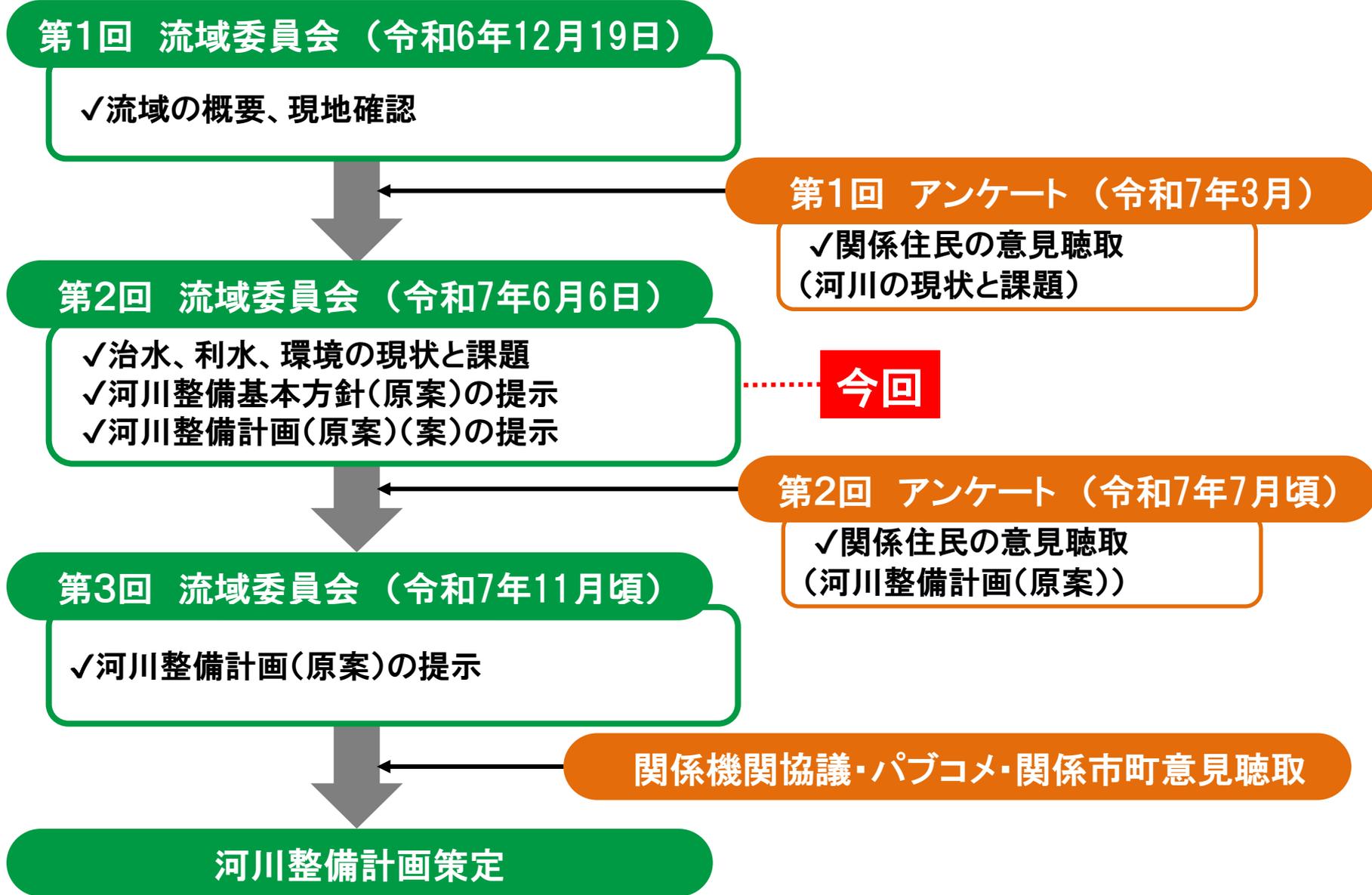
1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]



目次

1. **これまでの経緯 [一部更新]**
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

■これまでの経緯 <江川>





目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
- 2. 流域の概要 [変更なし]**
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

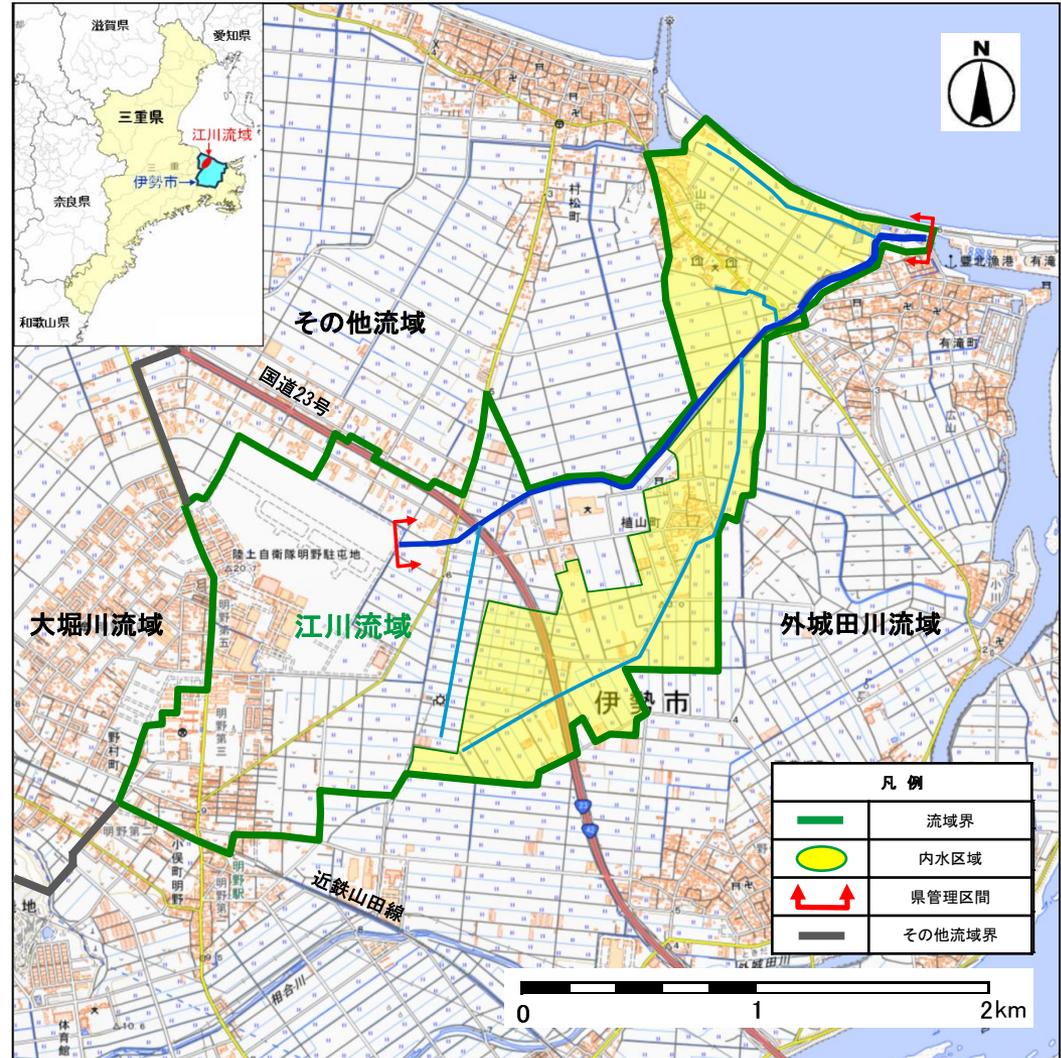
流域の概要



- 江川は、その源を伊勢市小俣町明野付近に発して、水田地帯を流下し、伊勢湾に注ぐ管理延長約2.8kmの二級河川である。
- 江川は流域内の標高差が10mにも満たない平地河川であり、流域の約4割を内水区域が占める。
- 河口部には高潮対策として江川樋門及び江川排水機場が設置されている。

- 関係市：伊勢市
- 主要道路：国道23号
- 鉄道：近鉄山田線

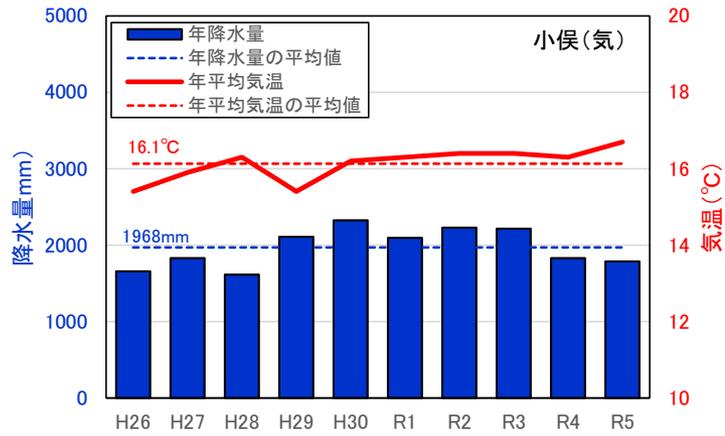
江川流域 流域面積：約3.7km²
管理延長：約2.8km



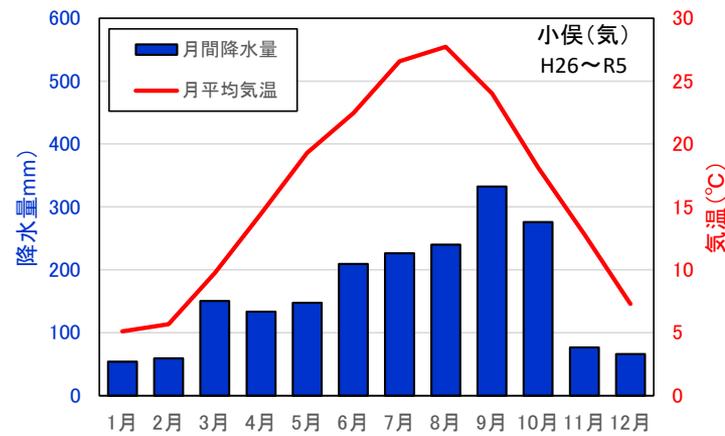


■ 気候（降水量・気温）

■ 江川流域の気候は、直近10か年において年平均気温が約16.1℃、年平均降水量は約1,968mmである。降水量は全国平均約1,691mm※を上回っており、比較的温暖な気候の地域である。

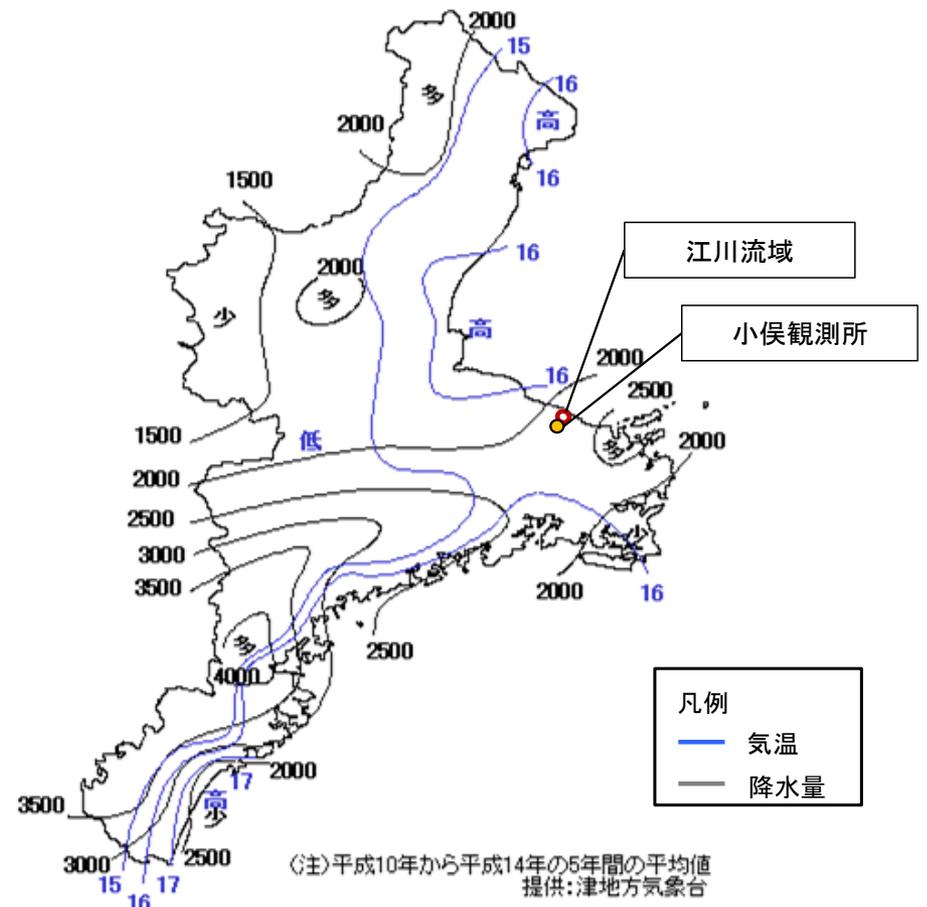


年平均気温、年間降水量 (気象庁小俣観測所)

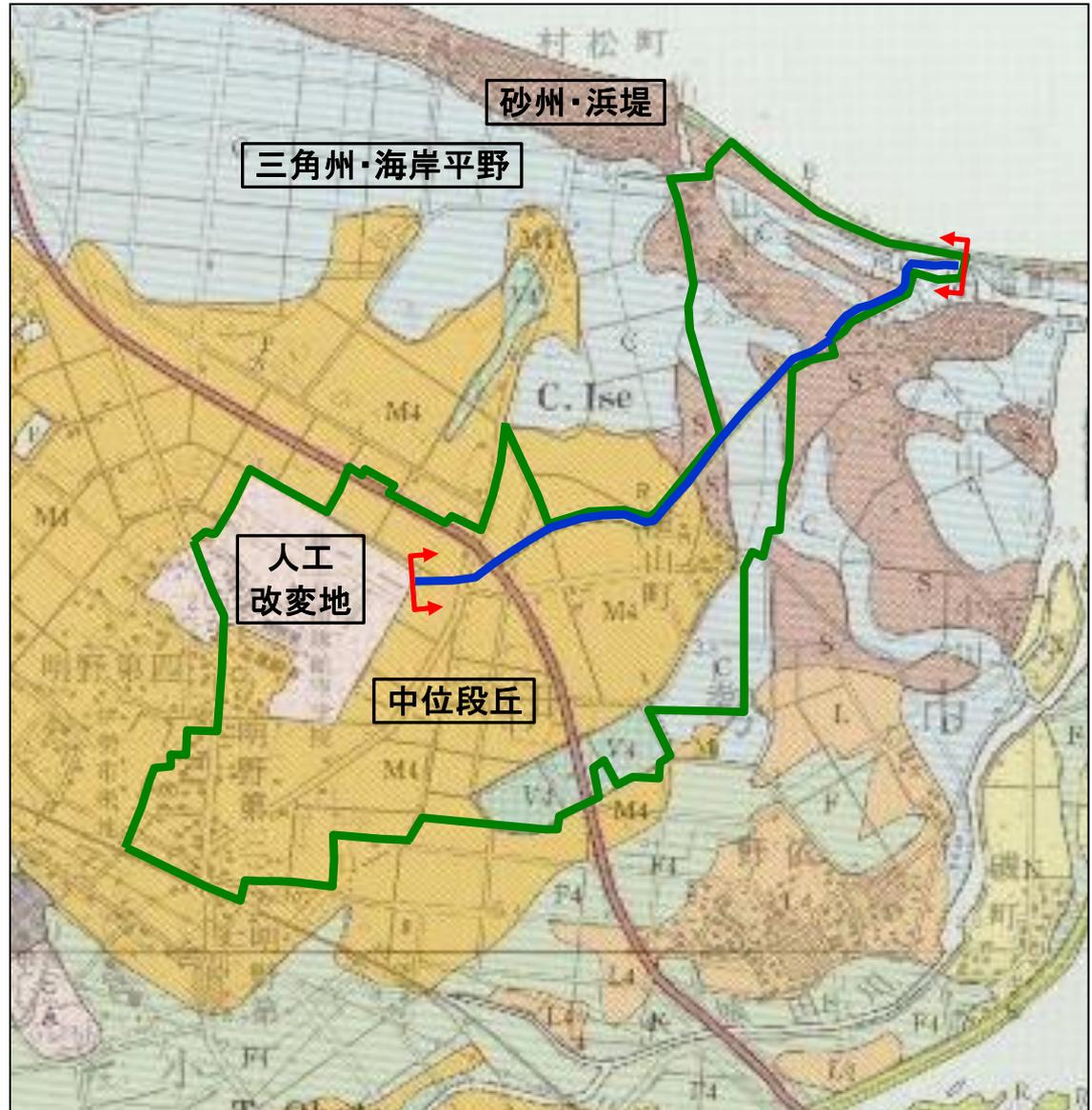


月平均気温、月別降水量 (気象庁小俣観測所H26~R5の10ヶ年平均)

※「令和5年版日本の水資源の現況について」(国土交通省水管理国土保全局水資源部)による51地点における2013~2022年のデータから算出



- 江川流域は、伊勢平野の南部に位置し、流域は低平な台地・段丘と低地で占められている。
- 上流部は中位段丘で、陸上自衛隊明野駐屯地付近が人工改変地である。
- 下流部は三角州・海岸平野となっており、海岸部は砂州・浜堤となっている。



台地・段丘			
上位段丘	U		
中位段丘	M		
下位段丘	L		
低地			
谷底平野・氾濫平野	F	その他	
三角州・海岸平野	C	浅い谷	V
自然堤防	N	干拓地	K
砂州・浜堤	S	盛土地	h
河原	R	人工改変地	A
海岸	B	河川・池	P
干潟	T	主要道路	

- 江川流域の地質は、下流部は砂を主とする堆積物、中流部は礫・砂・泥を主とする堆積物、上流部は礫を主とする堆積物で構成されている。

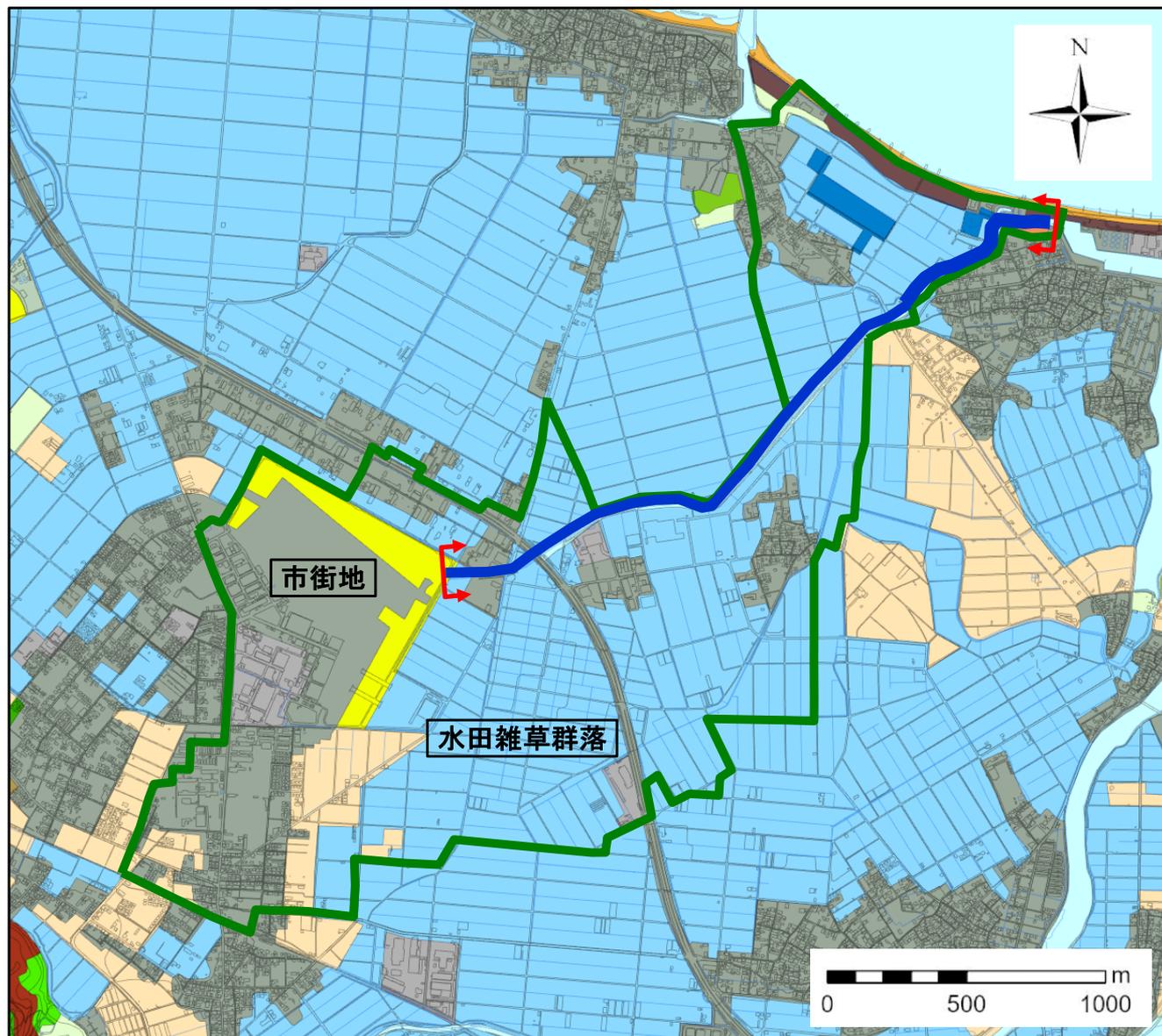


	埋立地 Reclaimed land
	礫・砂・泥を主とする堆積物 Gravel, sand and mud sediments
	砂を主とする堆積物 Sand rich sediments
	礫を主とする堆積物 Gravel-rich sediments
	礫を主とする堆積物 Gravel-rich sediments
	礫層 Gravel
	礫岩・砂岩・泥岩 Conglomerate, sandstone and mudstone
	花崗岩類 Granitic rock

■ 江川流域は、市街地を除き、植生のほとんどが水田雑草群落となっている。

植生区分

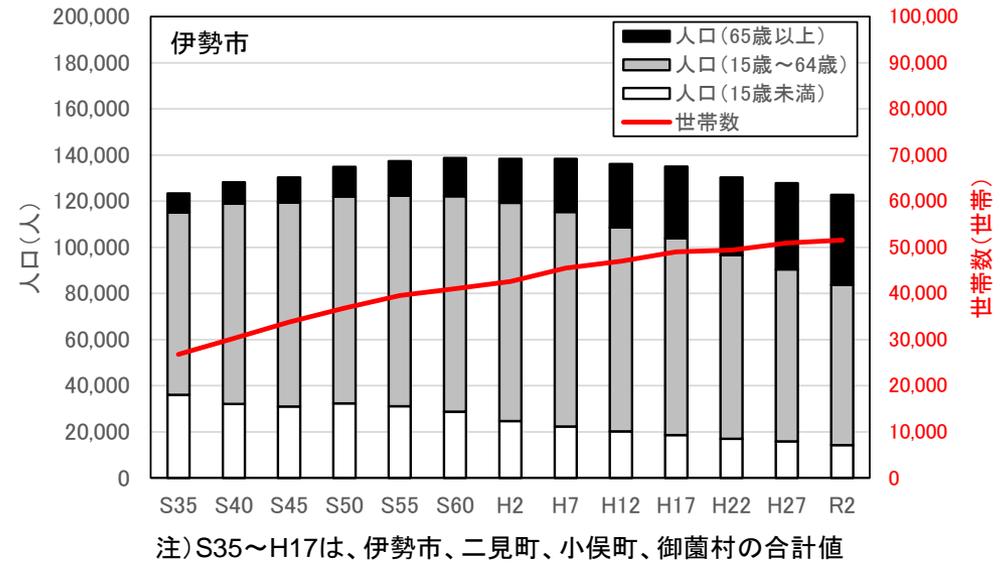
- 400100 シイ・カシ二次林
- 400200 タブノキ・ヤブニッケイ二次林
- 410105 アベマキ・コナラ群落
- 410700 アカメガシワ・カラスザンショウ群落
- 420102 モチツツジ・アカマツ群落
- 470400 ヨシクラス
- 490000 砂丘植生
- 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植生
- 540300 クロマツ植生
- 560100 ゴルフ場・芝地
- 570100 路傍・空地雑草群落
- 570300 畑雑草群落
- 570400 水田雑草群落
- 580100 市街地
- 580101 緑の多い住宅地
- 580300 工場地帯
- 580600 開放水域
- 580700 自然裸地



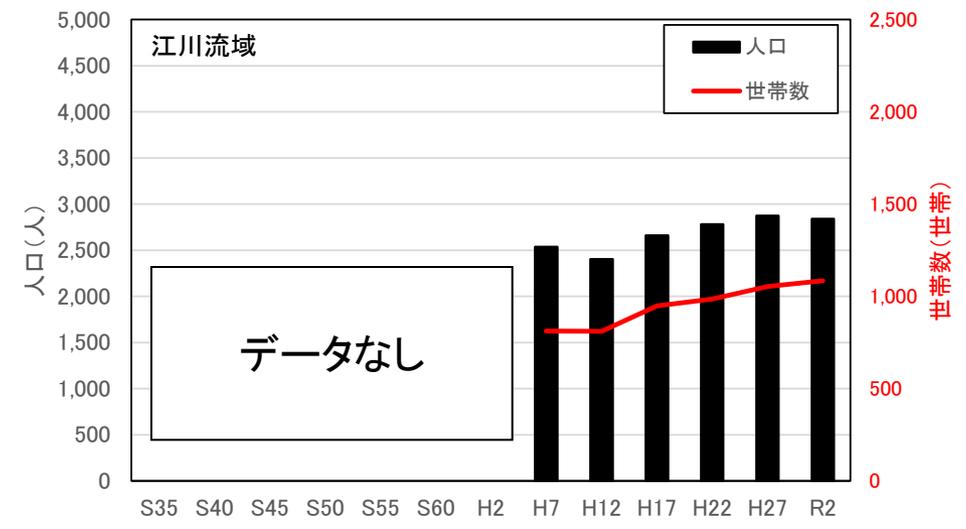
出典：自然環境保全基礎調査 植生調査1/25,000植生図



■ 江川流域が位置する伊勢市 (H17.11.1に度会郡二見町、小俣町、御園村と合併)の人口は、昭和35年から昭和60年までは増加し、その後は減少傾向にある。なお、65歳以上の人口及び割合は増加傾向にある。
 また、世帯数は増加傾向にある。
 ■ 一方、江川流域内の人口・世帯数は、流域上流部の市街化の進展に伴い、僅かに増加傾向にある。

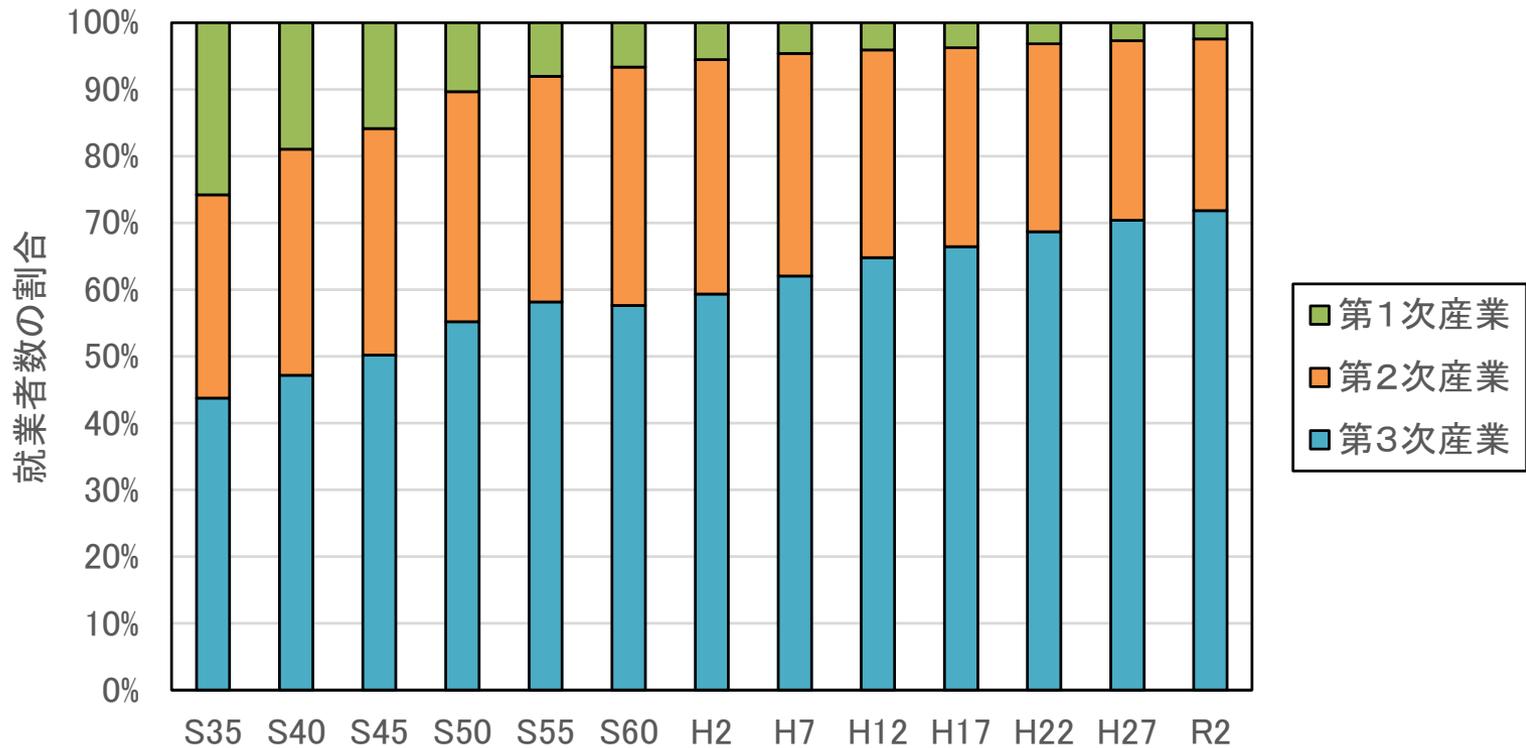


出典: 国勢調査



出典: 国勢調査(500mメッシュデータ)

- 江川流域が位置する伊勢市の産業別就業者数は、第1次産業就業者の割合が大きく減少しており、第2次産業就業者の割合も平成7年以降は減少傾向にある。
- 一方、第3次産業就業者が占める割合は年々増加し、令和2年には約7割を占めている。

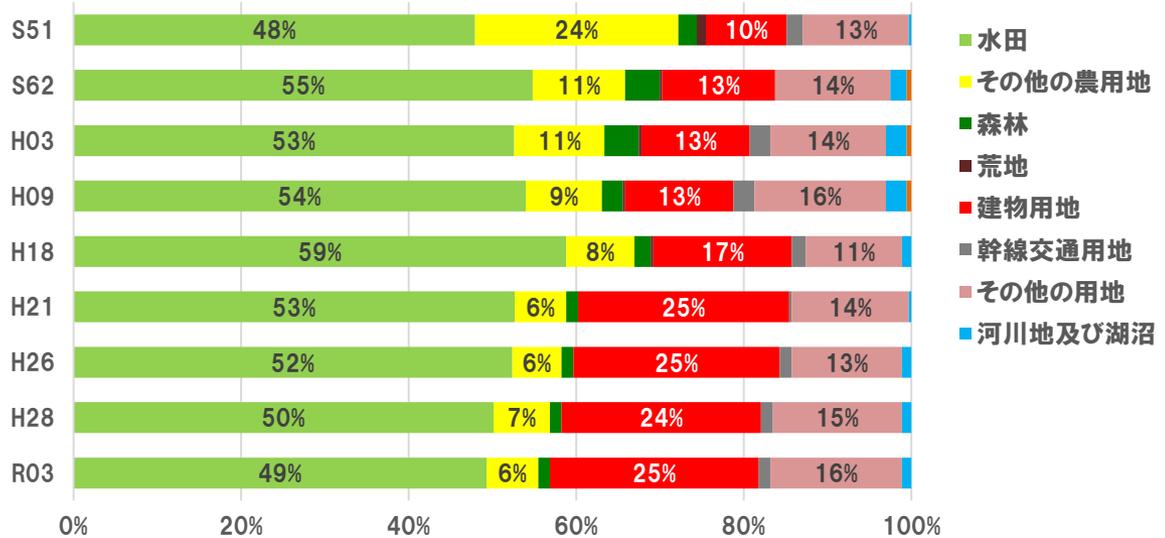


出典：みえDataBox(市町(村)累年統計表)

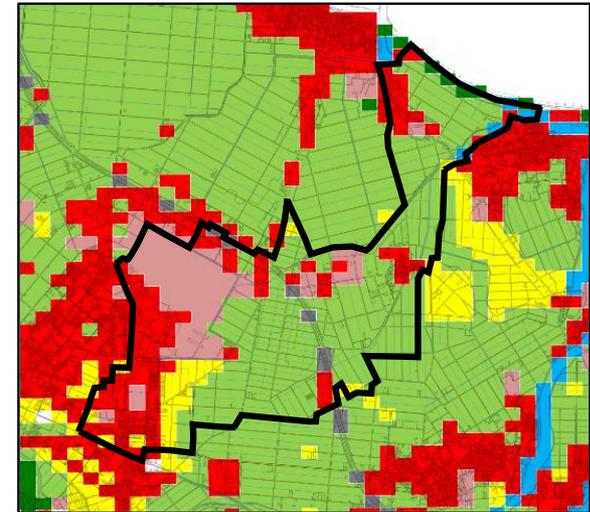
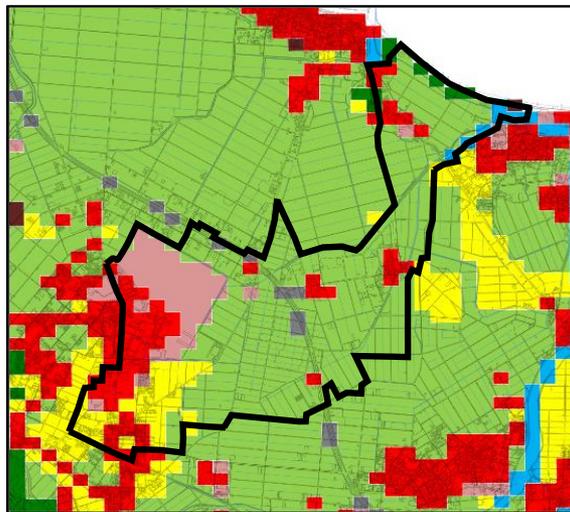
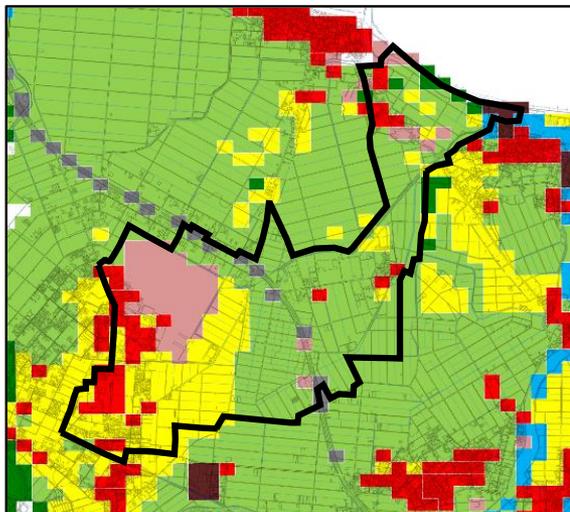
■土地利用の変遷



- 昭和51～平成18年にかけて、ほ場整備によりその他農用地の水田化が進んでいる。また、上流域において国道23号沿線の市街化により建物用地は、昭和51～平成21年にかけて増加している。
- 平成21年以降は、土地利用に大きな変化は見られない。



【昭和51年】 → 【平成18年】 → 【令和3年】



出典)国土数値情報「土地利用細分メッシュデータ」

■ 江川流域近傍の指定文化財として、紙本墨書大般若経附経櫃・帙箱(三重県指定)、獅子舞(伊勢市指定)がある。

■獅子舞

2月の第2土曜日に宇氣比神社の祭礼として行われる。

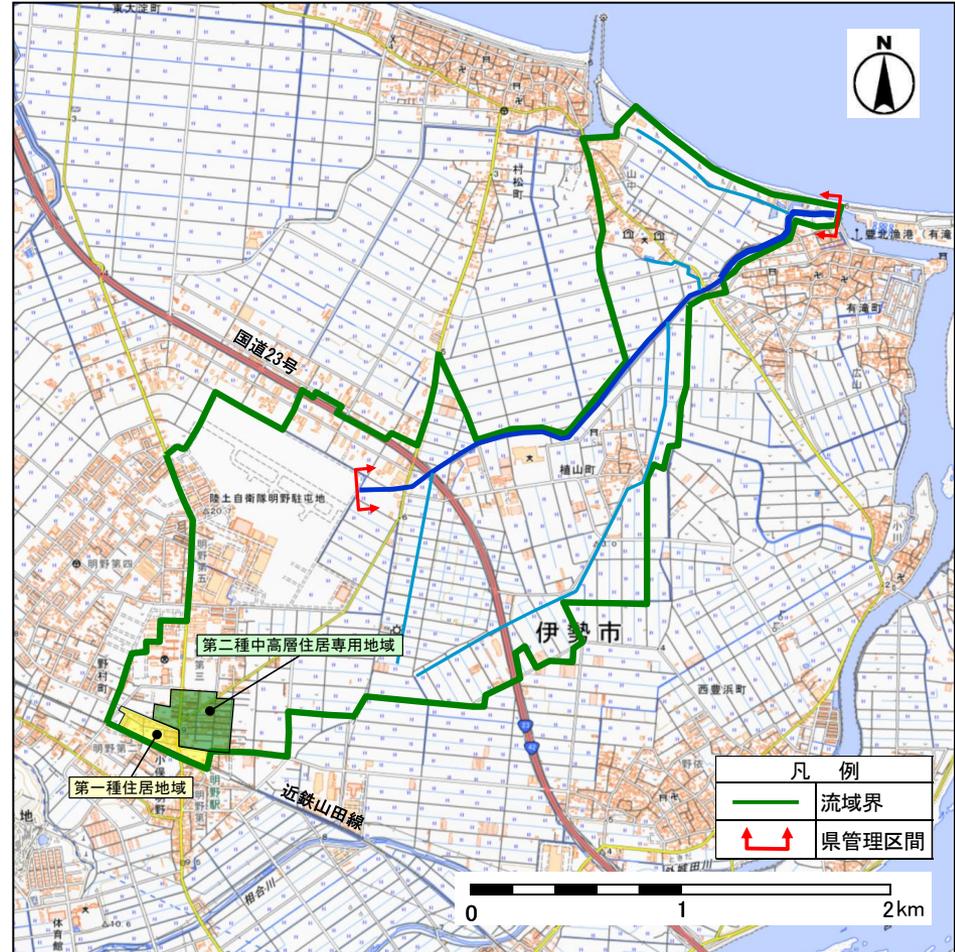
豊穰祈願と思われる「刀抜き」の行事や、夜、火の周りで若衆と御頭が猛烈に押し合う「打ち祭り」などが行われる。



■ 江川流域全体が都市計画区域内にあり、流域上流部において用途地域(第二種中高層住居専用地域及び第一種住居地域)が指定されている。



出典:伊勢志摩圏域マスタープラン(三重県)



用途地域図

- 江川流域のほぼ全域が農業振興地域として指定されている。
- 江川流域内に鳥獣保護区、土砂災害警戒区域の指定はない。



農業振興地域は、農業の振興を促進することを目的とする地域で、県が指定する。

農用地区域は、農業振興地域の中で、特に土地改良事業がなされたなどの生産性の高い地域で、市町村が指定する。

出典：国土数値情報「農業地域データ(H27)」

河道の変遷 下流部(0.0k~0.807k)



- 昭和32年に、河口部の江川樋門が整備された。
- 江川橋(県道)より下流部は川幅が広く、高潮位時の洪水貯留池としての役割を有している。
- 平成16年に、高潮対策として江川排水機場が整備された。





河道の変遷 中流部(0.807k~1.272k)

- 江川橋(県道)から県管理区間上流端の区間では、昭和40~50年代に河道拡幅が行われ、その後、平成11~14年に低水路の河道掘削が行われた。
- 背後地のほ場整備は、平成20年には完了している。



河道の変遷 中流部(1.272k~2.072k)



- 江川橋(県道)から県管理区間上流端の区間では、昭和40~50年代に河道拡幅が行われ、その後、平成11~14年に低水路の河道掘削が行われた。
- 背後地のほ場整備は、平成20年には完了している。



河道の変遷 上流部(2.072k~2.792k)



- 県管理区間の上流端に位置する陸上自衛隊明野駐屯地は、昭和30年代から昭和60年代の間に段階的に施設が拡張されている。
- 国道23号の開通後は、国道沿線の土地利用が進んでいる。





目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
- 3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]**
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

□第1回流域委員会(令和6年12月19日)における意見・回答

Q1 : 生物の現地調査は10月に実施しているため、他の季節に確認できる大事な種が確認できていないことを想定して検討してほしい。また、昆虫類では、汽水域に重要種のヒヌマイトンボが生息している可能性がある。ヤゴであれば、10月に実施した現地調査で確認されている可能性があるが、成虫を確認する場合、5～7月に調査を実施する必要がある。

A1 : 現地調査の実施は通常1回とし、その他の季節は文献調査により補完することとしています。

しかし、今回、重要種のヒヌマイトンボが生息している可能性があるというご指摘をいただいているため、ヒヌマイトンボの成虫が確認できる6月に追加調査を実施する予定です。

Q2 : 水質調査について、調査の時期や頻度はどの程度か。

A2 : 年に4回、2月、5月、8月、11月に調査を実施しています。



目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
- 4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]**
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

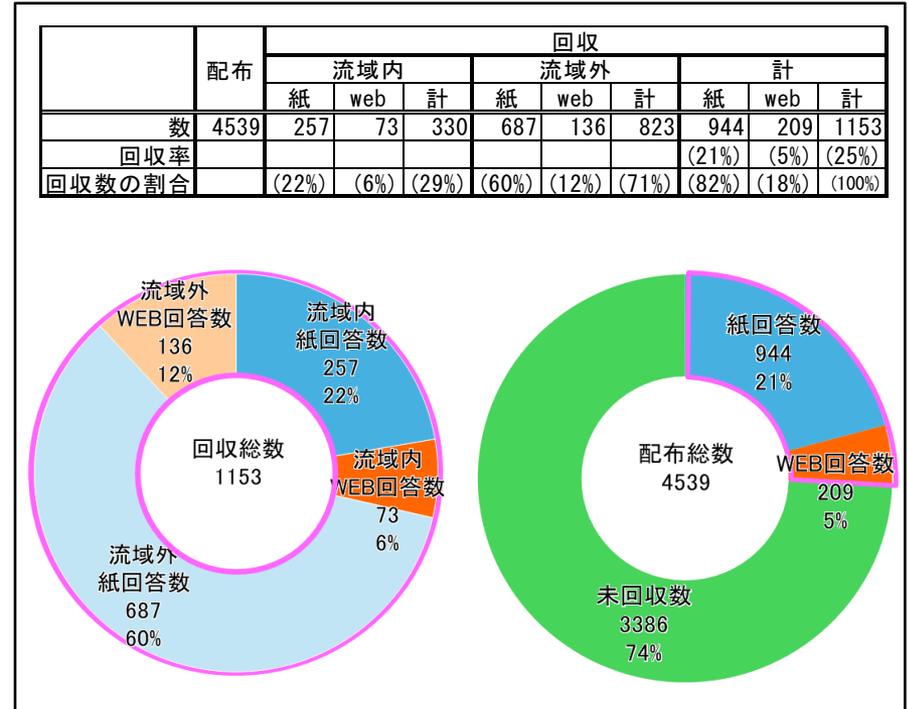
調査概要

- 目的: 江川流域に対する住民意識とニーズの把握
- 調査対象地域: 江川流域を含む周辺地域(伊勢市有滝町、西豊浜町、植山町、植松町、小俣町明野)
- 調査期間: 令和7年3月14日～令和7年3月31日
- 配布方法: 郵送(配達地域指定郵便)による全戸配布
- 回答方法: 紙媒体+WEBの併用 (WEBは調査票の二次元コードから、Microsoft Formsで回答)
- 配布数: 4539件
- 回収数: 1153件(このうち、流域内からの回答: 330件)
- 配布数に対する全体回収率: 25%

【第1回江川流域アンケート 配布範囲】



【第1回江川流域アンケート 配布・回収結果】



■調査結果（江川流域内からの回答の概要）

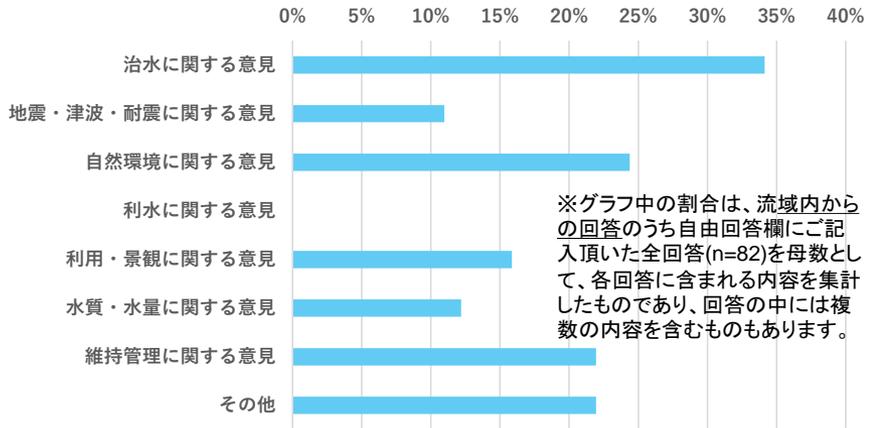


水害について	<ul style="list-style-type: none">✓ 水害に対して不安を感じるという回答は5割であった。✓ そのうち「洪水が最も不安である」という回答が約5割、「地震・津波が不安である」という回答が約5割であった。✓ 洪水に不安を感じる理由として「川の中に堆積土砂や樹木が多くなっていて不安を感じるから」という回答が約4割であった。✓ 地震・津波に不安を感じる理由として「南海トラフの大規模地震による津波に対し浸水被害が生じることが想定されるため不安を感じるから」という回答が約8割であった。
水質について	<ul style="list-style-type: none">✓ 江川の水質について、「ふつう」という回答は約7割、「水が汚い」という回答は約3割であった。
自然・風景について	<ul style="list-style-type: none">✓ 江川の自然について、「ふつう」という回答は約7割、「自然が少ない」という回答は約2割であった。✓ 江川の景観について、「ふつう」という回答は約7割、「風景が悪い」という回答は約2割であった。
維持管理について	<ul style="list-style-type: none">✓ 江川の維持管理の状況について、「ふつう」という回答は約6割、「悪い」という回答は約4割であった。
利用について	<ul style="list-style-type: none">✓ 来訪頻度は「ほとんど行かない」が最も多く約5割であった。✓ 来訪目的は「散歩・ジョギング」が最も多く約5割であった。
将来像について	<ul style="list-style-type: none">✓ 水害(大雨)に対して安全な川になってほしいという回答が最も多く約2割、次いで地震・津波に対して安全な川になってほしいという回答が約2割を占めた。

■調査結果（川づくりに関する自由意見（流域内））

□流域内からは、治水に関する意見が最も多く、2番目に自然環境に関する意見が多かった。

問 川づくりに関する自由なご意見をご記入ください。



流域内の周辺地域からの意見

（治水）

- 伊勢湾台風と昭和28年台風13号で床上浸水、腰まで水に浸水されました。それ以後は経験がないが南海トラフが心配です。
- 江川の左右の堤防が低い、排水機場が故障した時には浸水被害が心配です。
- 50年間以上江川の氾濫はありませんが、最近の異常気象による集中豪雨に耐えられるか心配です。特にポンプが1か所、新江川のみになってしまっている。旧の排水機場も改修してほしい。樋門も古くなっているので改修をお願いします。

（地震・津波・耐震）

- 温暖化による異常気象での降雨で発生する洪水や南海トラフ等地震の発生が予想されておりますので耐震補強や河川整備等の推進をお願いしたいです。
- 水害対策整備は、早急に実施して欲しい。南海トラフ防災とも関連した防災計画を希望する。
- 上流は安心だが下流（低い所）に行く程不安、浸水の危険性がある。

（自然環境）

- 川が安全のために整備されることはとても良いことだと思います。それと同じように環境も大切です。住んで50年以上になりますがその時と比べて家はたくさん建ちましたが回りは田園に囲まれとても住みやすいところです。子供たちのためにも整備により環境が破壊されることのないよう願っています。
- コンクリートばかりで自然がない。
- 災害に対して安全で、自然環境のよい川づくりに期待します。

（利用・景観）

- 今回江川の調査をしてくれたので、桜浜中学沿いを特に整備し、地域学生のための場にしてほしいです。
- 将来の維持費がかからないようにして欲しい。そのために景観が損なわれても良いと考える。

（水質・水量）

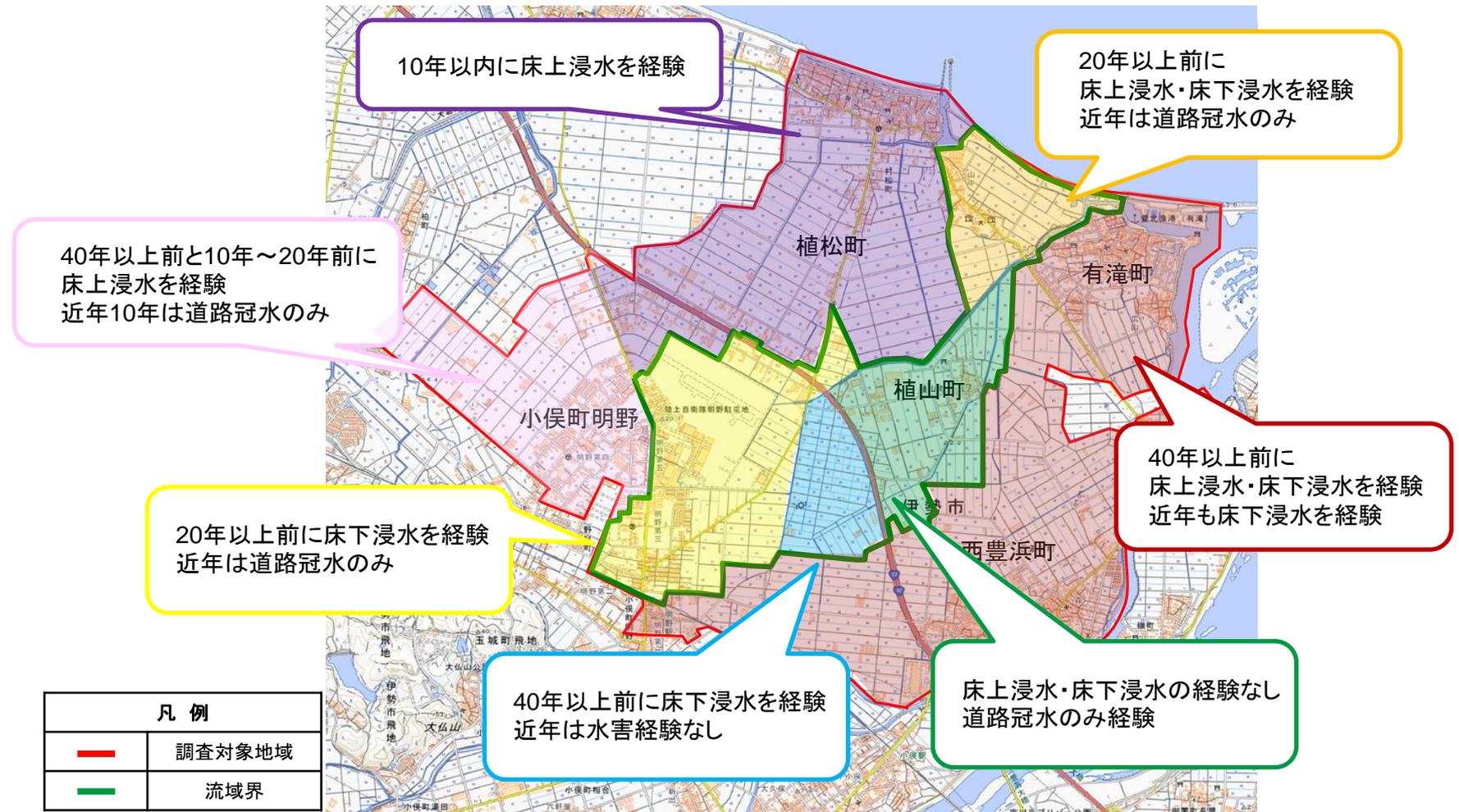
- 害虫の発生源となる水質汚染の改善を強く希望します。
- 今回の資料から、定期的な水質調査が行われていると知り、安心いたしました。環境基準のことも初めて知りました。これからも汚くならないと良いのですが。

（維持管理）

- 江川の雑木が道路までのびて、通行の妨げとなっている。草木の伐採をしてほしい！
- 堤防の樹木が年々大きくなって堤防の損壊が心配。
- 排水機場の日常の点検を考えてほしい。

■調査結果（調査対象地域全体の回答の概要）

- アンケートの結果、回答者の年代、水害に対して不安を感じる理由、江川の水質、景観、自然、維持管理、利用、将来像に関する回答については、江川流域内からの回答とその周辺を含めた調査対象地域全体の回答で同様の傾向であった。
- 水害の経験については、江川流域内では、今から20年以内での水害経験は「自宅周辺での道路冠水などの経験」のみであり、今から20年以内に流域内で床上・床下浸水が発生したという回答はなかった。



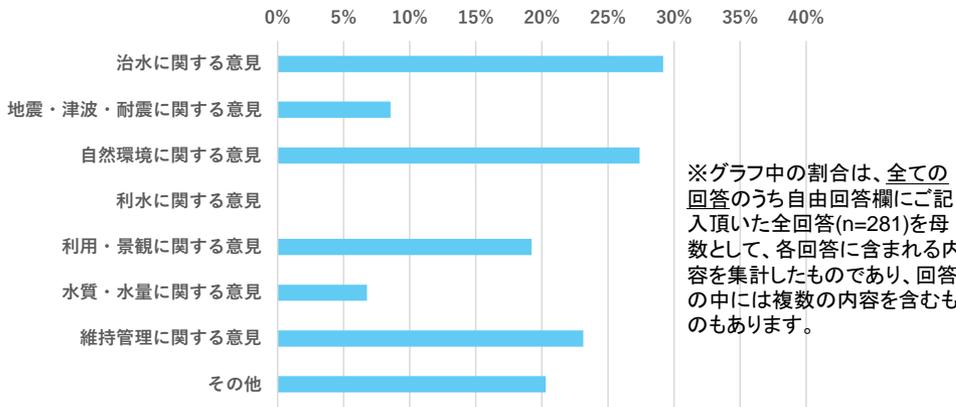
水害の経験に関する回答（回答地域別）

■調査結果（川づくりに関する自由意見（全体））



【対象地域全体】

問 川づくりに関する自由なご意見をご記入ください。



流域外の周辺地域からの意見

（治水）

- 江川は避難場所のひとつである桜浜中学校のすぐそばを流れているので、台風や大雨、地震後の高波・津波に対してそなえられる川であってほしいなあと感じます。(H地区)
- 江川の排水機について、町会として降雨時（警報発表時）運転に行ったが、危険を感じる遠隔操作出来るようにしてほしい。(H地区)
- 流域周辺を見ていくと、人口の多い地域ではないため、有効利用のために投資することはあまり賛同できない。ただ、川がそこに存在することは変わらないため災害への対策など安全性の確保は十分に行っていただきたい。(H地区)
- 側溝を整備してもらっては道路冠水が減りました。(I地区)

（地震・津波・耐震）

- やはり防災に対して不安です。海・川が近いので南海トラフを考えると怖いです。(H地区)
- 南海トラフを震源域とする地震の発生に備え、江川排水機場の耐震強化や津波対策をしていただければ、より安全・安心に暮らすことができるので、ご検討いただけますと幸いです。(H地区)

（自然環境）

- 明和町の祓川のように自然を残して欲しい。(H地区)
- 江川には各季節に鳥がたくさんいて心いやされます。(H地区)
- 自然豊かな河川で現在ナマズ、メダカ、ザリガニ、ドジョウ、ウナギが取れる河川です。(H地区)
- 生物が生きていけない環境は人間にも何かしらの影響があると思います。共生できるきれいな川、南海トラフの地震影響の少ない丈夫で安心安全な川づくりをお願いします。(I地区)
- 排水機場の耐震化・修繕は必要だと思うが、川に手を加えすぎることによる、現在の生態系が崩壊することは望まない。(I地区)
- 治水を第一にしつつ、環境（自然等）を重視して、川づくりを進めてほしいと思います。(J地区)

（利用・景観）

- 江川はマムシ・亀等が生息していてキケンである。川の長さに程良いので散歩・ジョギングとしての整備をしていただければ、ありがたいです。(H地区)
- 桜浜中学の通学時に川沿いにガードレールと街灯がないので川への落下の危険があると思う。(I地区)

（水質・水量）

- 農薬の流入などに注意して、自然環境を良く保ってほしい。(J地区)

（維持管理）

- 河床の管理。草木が流れを悪くする。排水機場に故障を起こす。(H地区)
- 江川は地域にとって大切な川なので大切に維持・管理してほしいです。(H地区)
- 雑草が多いから対応してほしい。(J地区)



目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
- 5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]**
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

■ 江川流域においては、過去に頻りに内水による家屋の浸水被害を受けており、河川改修が進められてきた。平成16年に河川改修事業が完了した後は、家屋の浸水被害は見られない。

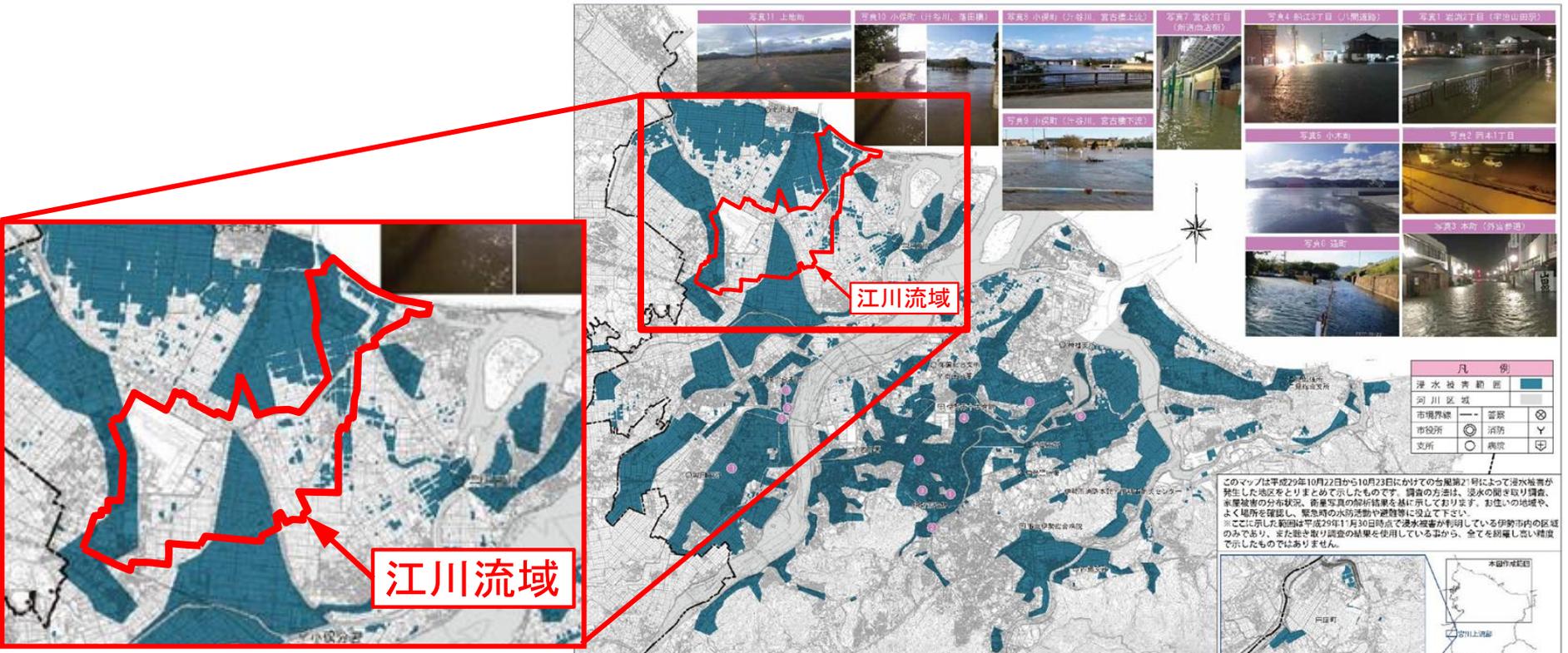
年度	異常気象名	河川・海岸名	水害原因	水害区域面積 (ha)			被災家屋棟数 (棟)					一般資産被害額 (千円)			
				農地	宅地	計	床下浸水	床上浸水	半壊	全壊	計	一般資産	営業停止損失	農作物	計
1974 S49	台風8号及び豪雨 (7.1~7.2)	江川	内水	338.5	203.5	542	33	1	0	0	34	4,306	0	11,907	16,213
1975 S50	豪雨及び暴風雨 (8.5~8.25)	植山地区	内水	70	0	70	0	0	0	0	0	0	0	5,348	5,348
1976 S51	台風第17号と豪雨 (9.7~9.14)	江川	内水	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	1,376	1,376
1976 S51	台風第17号と豪雨 (9.7~9.14)	明野第3地区	内水	4	0.1	4.1	10	0	0	0	10	2,284	0	1,036	3,320
1977 S52	豪雨 (8.4~8.22)	江川	内水	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	86	86
1979 S54	台風第20号 (10.14~10.26)	江川	内水	0	0.1	0.1	2	0	0	0	2	291	0	0	291
1982 S57	豪雨、落雷、風浪と台風第10号 (7.5~8.3)	有滝地区	内水	4	0.1	4.1	2	2	0	0	4	1,923	0	1,200	3,123
1983 S58	台風第5号、6号 (8.12~8.19)	有滝地区	内水	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	500	500
1984 S59	豪雨 (4.17~4.21)	江川	内水	0	0.1	0.1	2	2	0	0	4	83,207	0	0	83,207
1991 H3	台風第17号~19号豪雨風浪 (9.11~9.28)	村松町地区	窪地内水	0	3	3	4	0	0	0	4	1,293	0	0	1,293
1994 H6	台風第26号 (9.27~10.1)	江川	内水	0.05	0	0.05	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,000

水害統計調査

■水害の歴史

■ 近年代表的な出水である平成29年10月(台風第21号)において伊勢市内で多くの浸水被害が発生したが、江川流域では溢水氾濫は無くいずれも農業用水路からの溢水による農地の内水被害である。

年度	異常気象名	市町村	水害原因	水害区域面積(ha)	被災家屋棟数(棟)			
					床下浸水	床上浸水	店舗・倉庫等の浸水	計
2017 H29	台風29号 (10.19~10.24)	伊勢市	有・無提部溢水 内水	約3000	674	408	763	1845

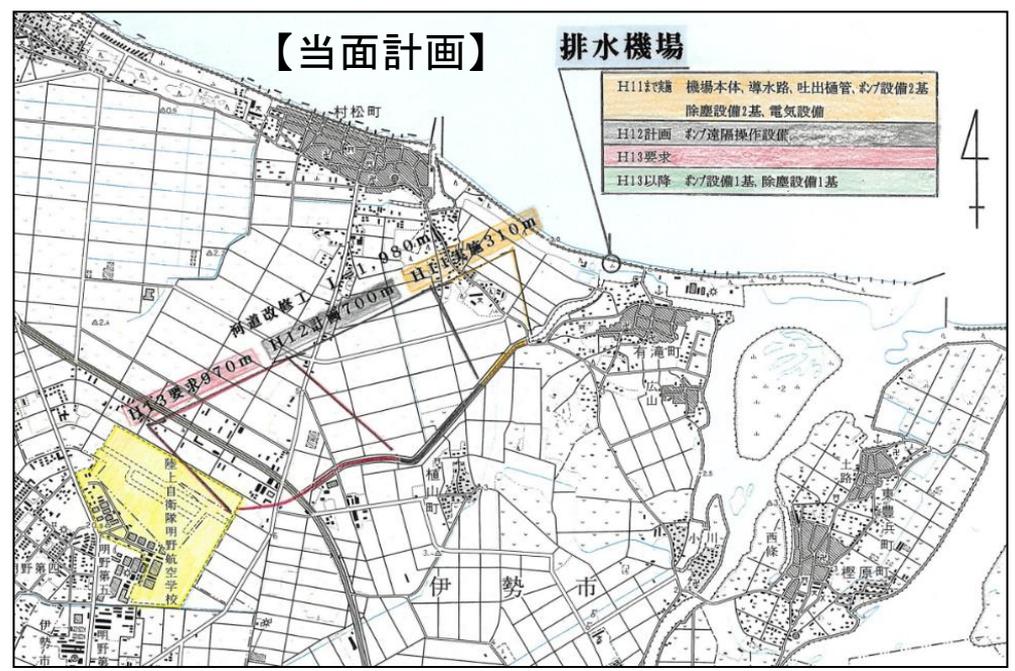


出典:伊勢市資料(平成29年台風第21号の出水概要及び被害の状況)に加筆

■ 既往計画の概要（江川）

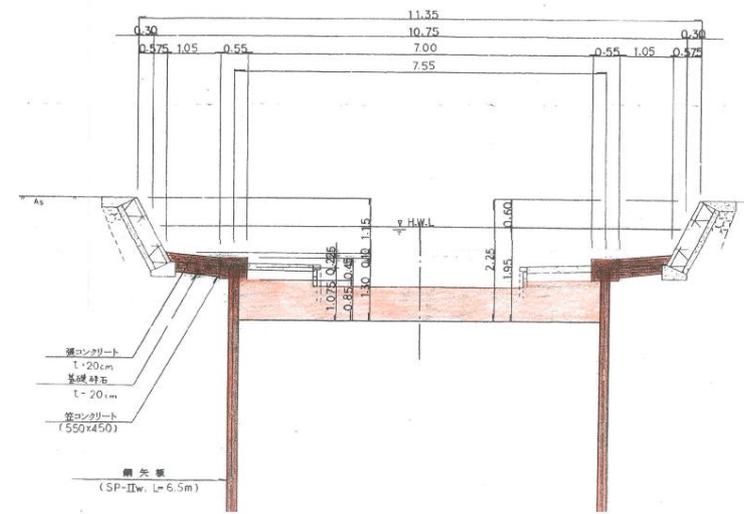
- 江川では、昭和40～50年代に河道拡幅を行っているが、江川上流域における農地の宅地化や、明野駐屯地の拡張等の土地利用の変化に伴う流出量の増加に対し、流域の洪水被害を軽減するため、平成8年度から「江川防衛施設周辺障害防止対策事業」が実施された。
- 当事業では、当面計画に基づく江川橋（県道）から県管理区間上流端の河道改修（低水路の河道掘削等）と、高潮対策として江川排水機場（計画排水量11.0m³/s）の整備が平成16年に完了している。

	当面計画
計画規模	実績降雨 (平成3年9月)
計画流量(下流端)	17.5m ³ /s
整備内容	河道改修 (低水路の河道掘削等による河積の拡大)
整備内容 (高潮対策)	江川排水機場(11m ³ /s)



河川改修の経緯

■ 江川は、昭和40～50年代に河道拡幅・護岸整備が実施され、平成8年度から江川排水機場の整備と低水路の河道掘削が行われ、一定の河川改修が完了している。



標準横断面図

河川改修の経緯（江川排水機場）

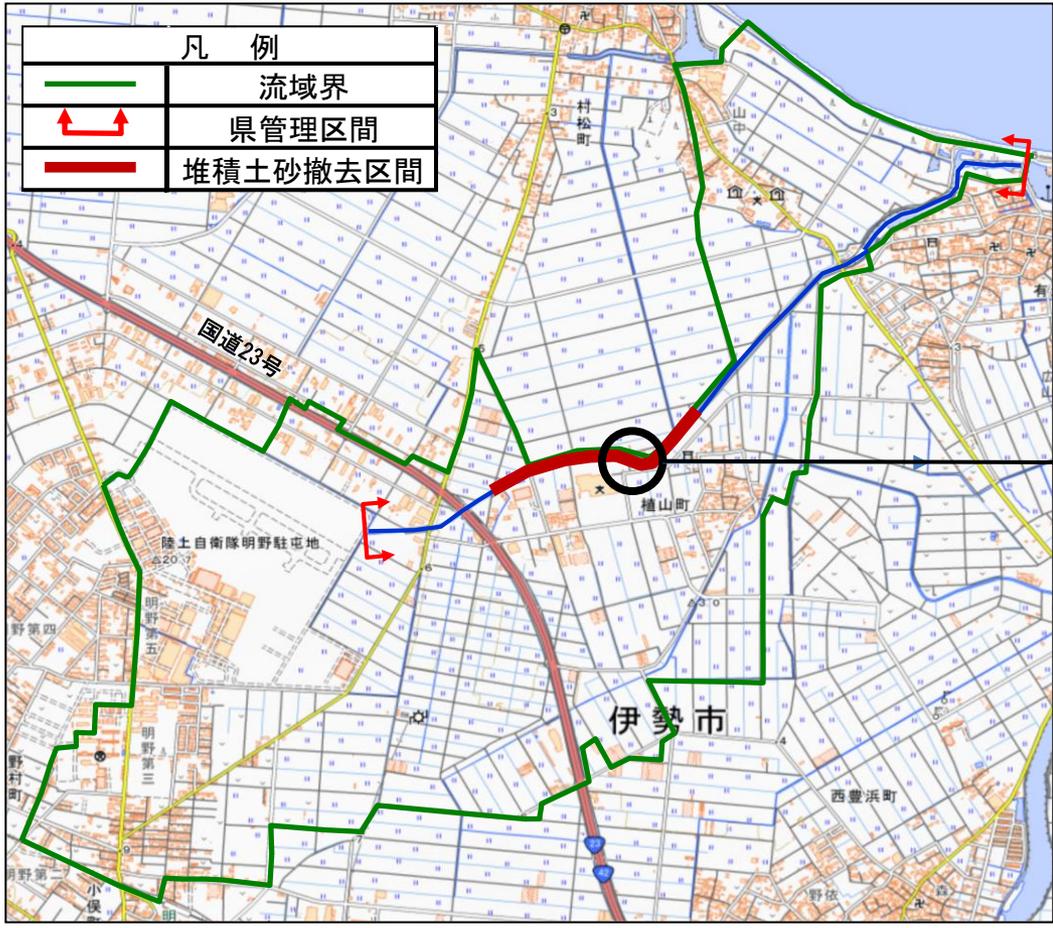


- 江川排水機場は、「江川防衛施設周辺障害防止対策事業」により、平成16年に完成した。（ポンプ排水量 $11.0\text{m}^3/\text{s}$ で整備）
- 排水機場の操作は、高潮時において降雨等が重なり江川の自然排水が阻害された場合に、雨水排水ポンプによる強制排水を行い、流域における内水被害を軽減することを目的としている。
- 建設から20年以上が経過しており、長寿命化修繕計画に基づく延命化対策が必要となっている。また、排水機場は耐震性能が不足するため、耐震対策を検討する必要がある。



■堆積土砂撤去の実績

■ 江川では、平成30年度～令和3年度にかけて、堆積土砂の撤去・植生等の伐採を実施している。



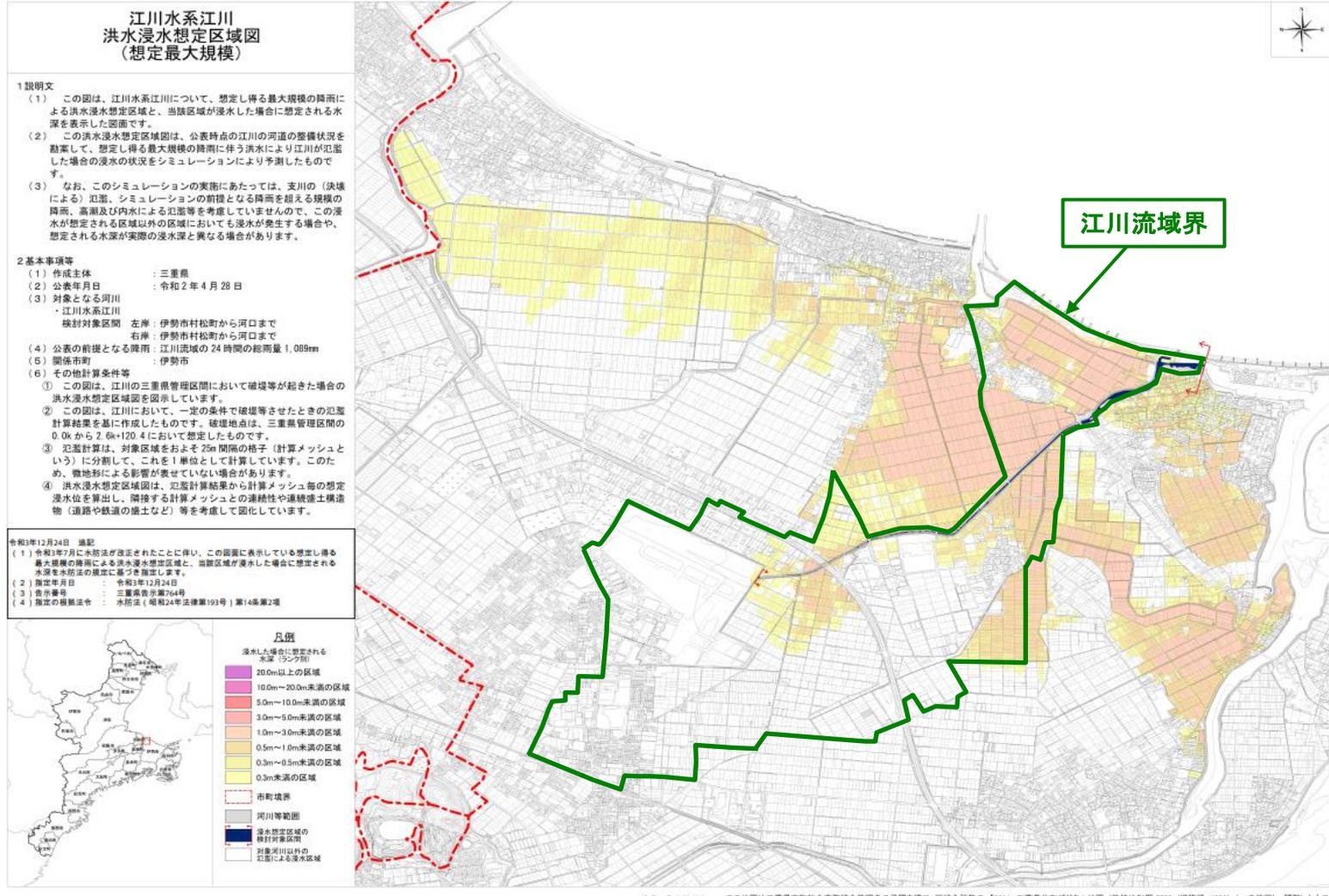
	堆積土砂撤去		
	実施延長 (m)	撤去土量 (m3)	伐採面積 (m2)
平成30年度	100	100	
令和2年度	100	100	
令和3年度	500		3,500



ソフト対策の状況（洪水浸水想定区域図）



■ 洪水時の円滑・迅速な避難行動に活用してもらうため、想定し得る最大規模の洪水が発生した場合の浸水想定区域図を作成し、公表している。



江川水系江川
洪水浸水想定区域図
(想定最大規模)

1 説明文

- (1) この図は、江川水系江川について、想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- (2) この洪水浸水想定区域図は、公表時点の江川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水より江川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- (3) なお、このシミュレーションの実態にあつては、支川（決壊による）氾濫、シミュレーションの前線となる降雨を超える規模の降雨、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水が想定される区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2 基本事項等

- (1) 作成主体 : 三重県
- (2) 公表年月日 : 令和2年4月28日
- (3) 対象となる河川 : 江川水系江川
対象対象区域 左岸：伊勢市村松町から河口まで
右岸：伊勢市村松町から河口まで
- (4) 公表の前提となる降雨：江川流域の24時間の総雨量1,089mm
- (5) 関係市町 : 伊勢市
- (6) その他計算条件等
 - ① この図は、江川の三重県管理区間において破壊等が起きた場合の洪水浸水想定区域図を固示しています。
 - ② この図は、江川において、一定の条件で破壊等させたときの氾濫計算結果を基に作成したものです。破壊地点は、三重県管理区間の0.0kから2.6k+120.4において想定したものです。
 - ③ 氾濫計算は、対象区域をおよそ25m間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを1単位として計算しています。このため、個地形による影響が表せていない場合があります。
 - ④ 洪水浸水想定区域図は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続性構築物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して固示しています。

令和2年12月24日 通知

- (1) 令和2年7月に水防法が改正されたことに伴い、この図面に表示している想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を水防法の規定に基づき再算します。
- (2) 通知年月日 : 令和2年12月24日
- (3) 告示番号 : 三重県告示第744号
- (4) 指定の根拠法令 : 水防法（昭和24年法律193号）第14条第2項

凡例

浸水した時に想定される水深（9分間）	
20.0m以上の区域	紫
10.0m～20.0m未満の区域	赤
5.0m～10.0m未満の区域	オレンジ
3.0m～5.0m未満の区域	黄
1.0m～3.0m未満の区域	薄オレンジ
0.5m～1.0m未満の区域	薄黄
0.3m～0.5m未満の区域	黄緑
0.3m未満の区域	黄緑
市町境界	赤点線
河川等範囲	青線
浸水想定区域の境界線	黒線
対象河川以外の氾濫による浸水区域	赤点線

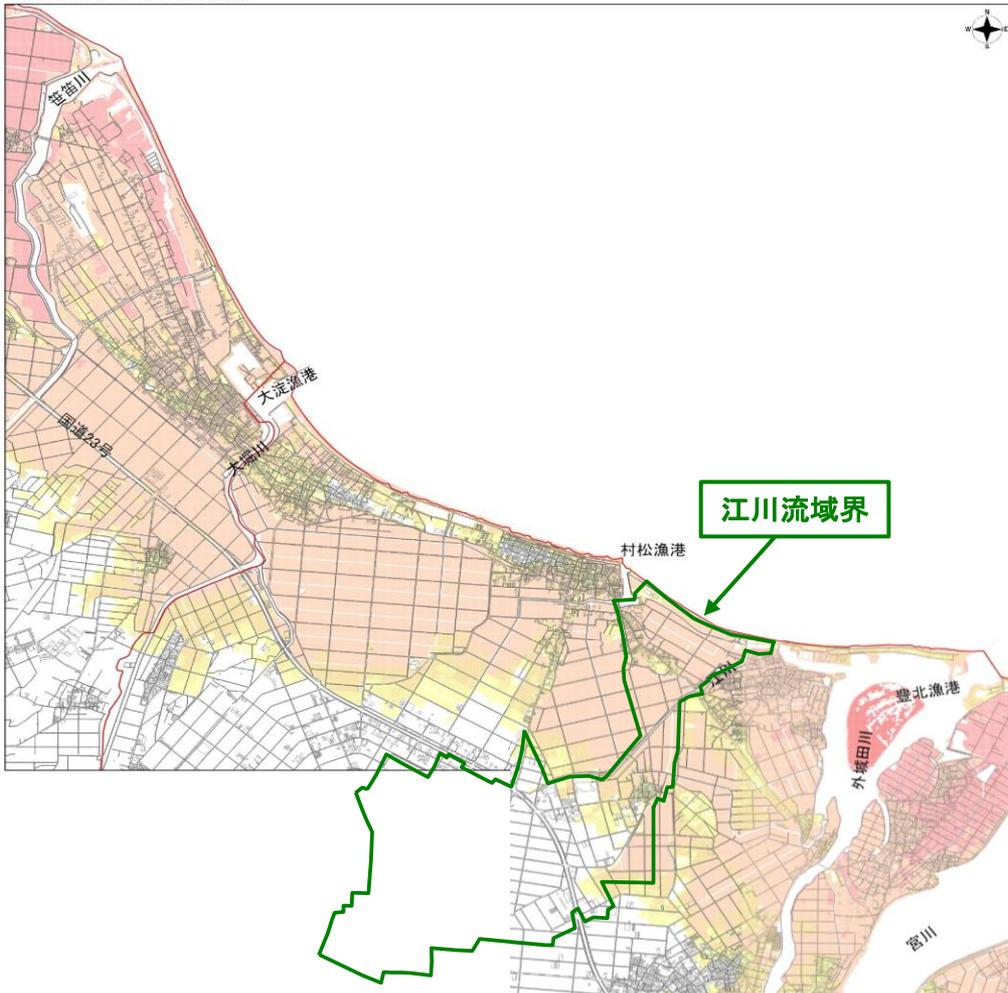
三重県 国土整備部 この図面は、三重県市町総合事務組合事務組合の委託を得て、南総合併管の「2011 三重県共有デジタル地図（数値地形図 2500（道路線 1000）」を使用し、調整したものである。（告示第744号）本図面を複製あるいは転載して複製を譲渡する場合は、関係者の承認が必要とする。この成果は、中部技術事務局長の承認を得て、防事務所作成の航空レーザー測量成果（オリジナルデータ、オルソフォトデータ、グリッドデータ、グラウンドデータ）を使用したものです。（告示第744号、令和元年5月23日付国土計画部令第1号）

ソフト対策の状況（高潮浸水想定区域図）

■ 高潮時の円滑・迅速な避難行動に活用してもらうため、想定し得る最大規模の高潮が発生した場合の浸水想定区域図を作成し、公表している。

伊勢湾沿岸（三重県区間）高潮浸水想定区域図（浸水区域及び浸水深）

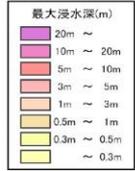
この図に含まれる市町：明和町、伊勢市



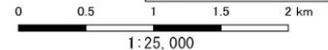
高潮浸水想定区域図
(浸水区域及び浸水深)
明和町②、伊勢市①

図面番号:18/21

【凡例】



【位置図】



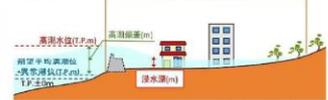
【留意事項】

○高潮浸水想定区域図は、水防法（昭和49年法律第153号）第14条に基づき、想定し得る最大規模の高潮による浸水が発生した場合に、浸水が想定される区域（浸水区域）、浸水した場合に想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水の継続時間（浸水継続時間）を明確に図面に表示したものです。
 ○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、既報の断崖を想定し、同時に上陸した想定最大波浪による船舶の衝突の観点により、港湾施設に大きな影響を与える船舶の経過を想定し、運送等は船舶条件に連した段階で決断するものとして、考慮シミュレーションを実施しています。
 ○この種別の高潮浸水シミュレーションの精度から、最大となる浸水区域、浸水深及び浸水継続時間を抽出し示しています。
 ○高潮浸水想定区域図は、地盤の高さを考慮した浸水深を示したものであり、地下空襲の浸水については反映していませんが、実際には、高潮が地下空襲に流入する確率もあります。
 ○道路のアンダーパスや運動場のドッグ等、周辺の土地より窪地に地盤が低い箇所では、断崖的に浸水深が深くなります。
 ○空襲により高潮が発生する状況では、同時に降雨も想定されるため、主要な河川については、河川整備の目標とする降雨による洪水が同時に発生した場合を想定しています。
 ○高潮による河川内の水位変化を関係していきませんが、高潮の増上等により、河川から離れた地域でも河川から溢れることが想定されます。
 ○高潮浸水想定区域図では、高潮浸水シミュレーションで再現しきれない局所的な地盤の凹凸や建築物の形状があること、想定していない出水（内水）が発生すること等、空襲で想定区域外でも浸水が発生したり、浸水深が深くなる場合があります。
 ○既存の航空写真を基に、過去に実際に発生した台風から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
 ○高潮浸水想定区域図は、高潮が発生する台風高潮時、各市町が作成するハザードマップ、避難勧告等を活用してください。

【用語の解説】

浸水深：高潮や高潮に伴う種差・離差によって浸水が想定される区域浸水深。陸上の各地点で水高が最も高い位置にきた時の地面から水面上までの高さ

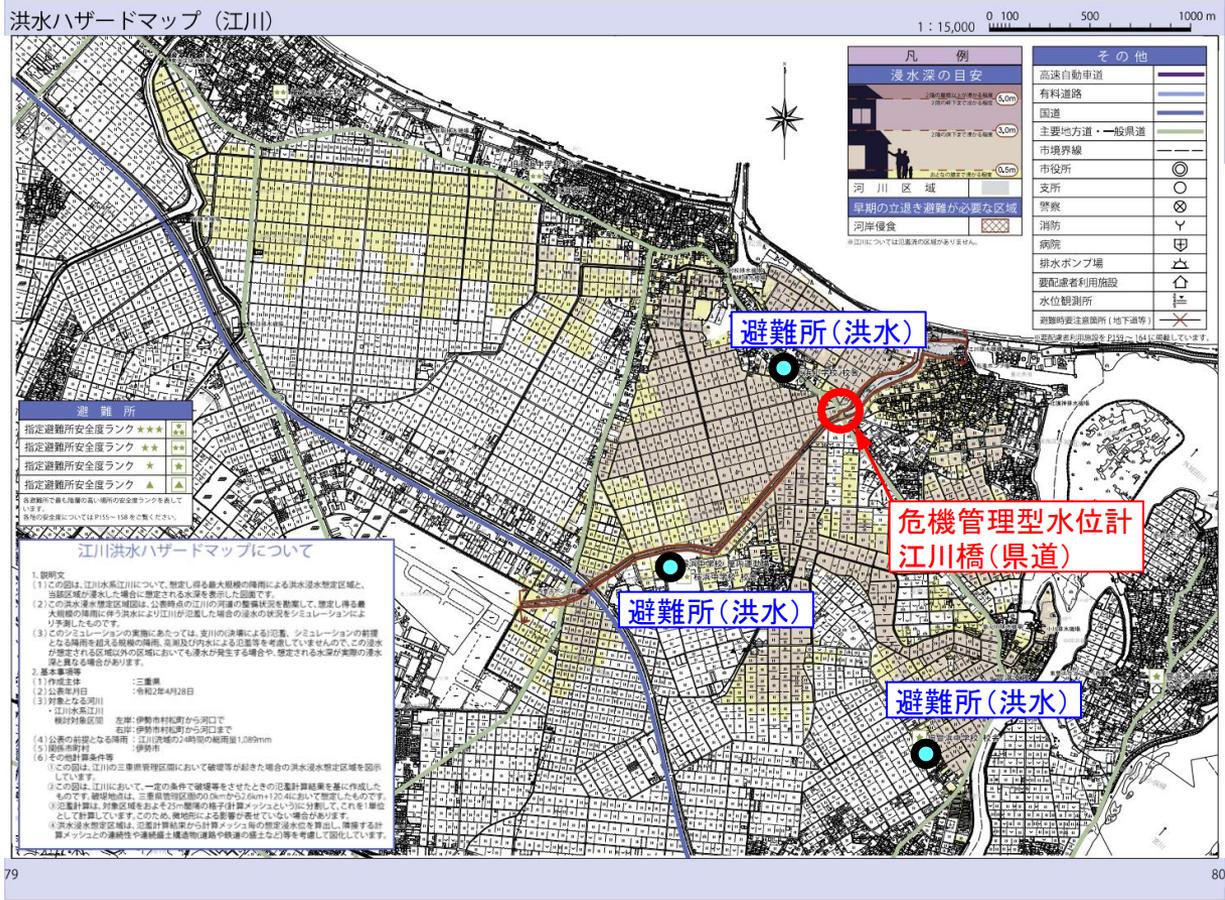
<模式図>



作成主体 三重県
 作成年月 令和2年8月
 指定年月日 令和5年3月24日
 告示番号 三重県告示第177号

ソフト対策の状況（その他）

- 伊勢市では、江川の洪水ハザードマップを公表し、浸水が予想される区域や避難場所など住民の避難に資する情報を提供している。
- 三重県では、洪水時の河川状況を把握するため、江川橋（県道）に危機管理型水位計を設置し、専用サイトで配信している。



危機管理型水位計
江川橋（県道）

流域治水プロジェクト

- 伊勢北部圏域では、県、市町、あらゆる関係者が一体となって流域治水を推進するため、**伊勢北部圏域二級水系流域治水プロジェクト**を策定している。
- 江川水系においては、堆積土砂撤去、江川排水機場の延命化等のハード対策や、ハザードマップ作成、危機管理型水位計の設置等、被害軽減のための取組を進めている。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【伊勢市】

- ・ハザードマップの作成
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進

【三重県】

- ・危機管理型水位計の設置と情報提供
- ・洪水浸水想定区域図作成と情報提供
- ・高潮浸水想定区域図作成と情報提供
- ・要配慮者利用施設における避難計画策定支援



洪水をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【三重県】

- ・江川 河道掘削
(堆積土砂撤去)
施設の延命化
(江川排水機場)

被害対象を減少させるための対策

【伊勢市】

- ・立地適正化計画の策定

【三重県】

- ・立地適正化計画の策定支援

出典：伊勢北部圏域二級水系流域治水プロジェクト 令和6年6月 三重県(抜粋)

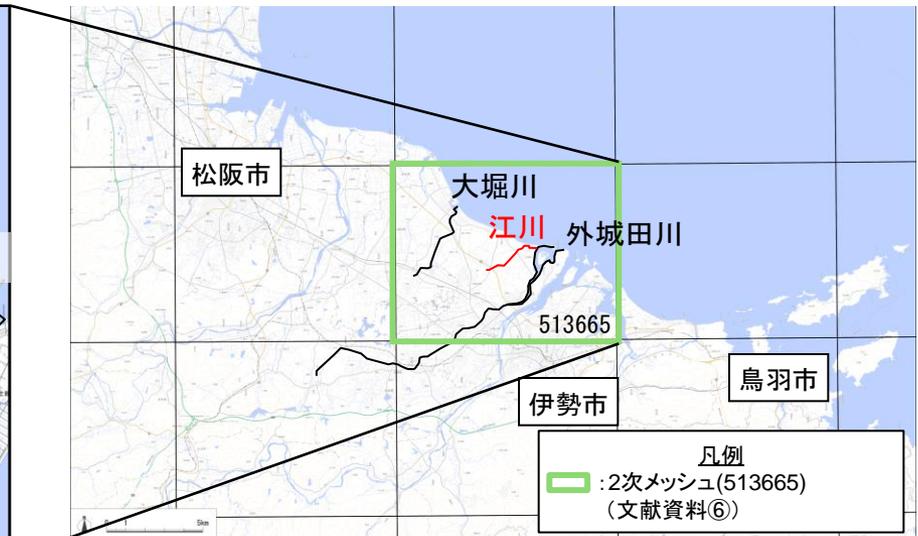
■江川流域の環境（文献調査）

□文献調査：江川流域の環境の概要を把握するため、文献調査を行った。江川流域を含む2次メッシュ及び江川流域の現地調査資料が不足しているため近隣河川（大堀川・外城田川）の現地調査結果も併せて整理した。

番号	資料名	調査対象範囲	項目
①	三重県の河口域魚類、豊橋市自然史博物館研究報告（19）（2009年、荒尾一樹）	江川（河口部） 近隣河川（大堀川・外城田川）	魚類
②	水生生物の分布、生態調査、淡水魚類の分布と希少魚類の繁殖基礎試験 平成12年度 三重県水産技術センター事業報告書（2001年、宮本敦史）	近隣河川（大堀川・外城田川）	
③	三重県におけるオオクチバスとブルーギルの分布 三重県水産技術センター研究報告 書第9号（2001年、水野智巳・宮本敦史）		
④	平成30年度河川調査第33-1 分2001 号 二級河川外城田川水系河川整備基本方針及び河川整備計画策定業務委託 報告書	近隣河川（外城田川）	魚類、鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類、哺乳類、底生動物、植物
⑤	令和5年度河川調査第26001-03分2001号二級河川大堀川水系河川整備基本方針及び河川整備計画策定業務委託報告書	近隣河川（大堀川）	
⑥	三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（2015年、三重県）	地域 （江川が含まれる2次メッシュ(513665)）	



調査対象範囲（拡大図）



調査対象範囲（広域図）

注）地理院タイル（淡色地図）を加工して作成



■江川流域の環境（文献調査）

- 文献調査の結果、江川流域を含む2次メッシュ内や、隣接する大堀川、外城田川流域では、魚類は57種、植物は395種、底生動物は152種、鳥類は98種、陸上昆虫類は252種、両生類は6種、爬虫類は10種、哺乳類は7種の確認記録があった。
- 重要種については、魚類は20種、植物は49種、底生動物は45種、鳥類は39種、陸上昆虫類は31種、両生類は2種、爬虫類は3種の確認記録があった。
- 特定外来生物については、魚類は3種、植物は1種、底生動物は1種、両生類は1種、爬虫類は1種、哺乳類は1種の確認記録があった。

文献調査による出現種

分類群	種数
魚類	10目 23科 57種
植物	42目 100科 395種
底生動物	28目 92科 152種
鳥類	15目 39科 98種
陸上昆虫類	13目 90科 252種
両生類	1目 4科 6種
爬虫類	2目 8科 10種
哺乳類	4目 6科 7種

文献調査による重要種

分類群	種名
魚類	20種(ヤリタナゴ、カワヒガイ 他)
植物	49種(スブタ、カワツルモ 他)
底生動物	45種(マルタニシ、カワアイガイ 他)
鳥類	39種(チュウサギ、ケリ 他)
陸上昆虫類	31種(ヒヌマイトトンボ 他)
両生類	2種(トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル)
爬虫類	3種(アカウミガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポン)
哺乳類	—

文献調査による特定外来生物

分類群	種名
魚類	3種(カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス)
植物	1種(オオキンケイギク)
底生動物	1種(アメリカザリガニ)
鳥類	—
陸上昆虫類	—
両生類	1種(ウシガエル)
爬虫類	1種(ミシシippアカミミガメ)
哺乳類	1種(アライグマ)

〔備考〕

※重要種の選定基準は以下とした。

- ・「文化財保護法」、「三重県文化財保護条例」で指定されている種。
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されている種及び亜種。
あるいは「三重県自然環境保全条例」（平成15年3月17日三重県条例第2号、最終改定平成25年12月27日三重県条例第89号）に基づく希少野生動植物。
- ・「環境省レッドリスト2020（令和2年2月）」に記載されている以下の種及び亜種。
- ・「三重県レッドデータブック2015」（平成27年、三重県）に記載されている種及び亜種。
- ・「三重県レッドリスト（2024年版）」（令和6年、三重県）に記載されている種及び亜種。

※外来種の選定基準は以下とした。

- ・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（令和16年、法律第78号）に記載されている種及び亜種。
- ・「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（平成27年、環境省）において指定されている種及び亜種。

□文献調査の結果を踏まえ、江川での河川環境を把握するため、現地調査を実施した。

調査項目		調査内容	調査範囲・地点数	調査日
動物	魚介類	魚類	2地点で実施 (中上流部、下流部で各1地点)	令和6年10月25日
		底生動物		
	鳥類・両生類・爬虫類・哺乳類	任意観察 (ラインセンサス調査)	調査対象範囲全域	令和6年10月17日
昆虫	任意採集 ライトトラップ (ボックス法)	令和6年10月8日		
植物		任意観察		令和6年10月7日
河川環境		現地での確認、記録		令和6年10月7日



注) 地理院タイル (淡色地図) を加工して作成

調査対象範囲



投網(魚介類調査)



タモ網(魚介類調査)

○重要種の選定基準

- ・「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号) あるいは「文化財保護条例」(昭和32年、三重県)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号) あるいは「三重県自然環境保全条例」(平成15年3月17日三重県条例第2号、最終改定平成25年12月27日三重県条例第89号) に基づく希少野生動植物。
- ・「レッドリスト2020」(令和2年、環境省)
- ・「三重県レッドデータブック2015」(平成27年、三重県)
- ・「三重県レッドリスト(2024年版)」(令和6年、三重県)

○外来種の選定基準

- ・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年、法律第78号)
- ・「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成27年、環境省)

河川環境の概況（河川環境）

□ 河川環境：上流から河口にかけて、流速は緩やか。
 中上流部は、低水路内の大部分がヒメガマ等の抽水植物に覆われ、下流部は、比較的川幅が広く、低水路内にヨシ原（抽水植物）、水草が群落を形成していた。
 河床材料は、中上流部では砂質の土壌であり、下流部では泥質の土壌であった。



河川環境の概況（現地調査・環境DNA：魚類）



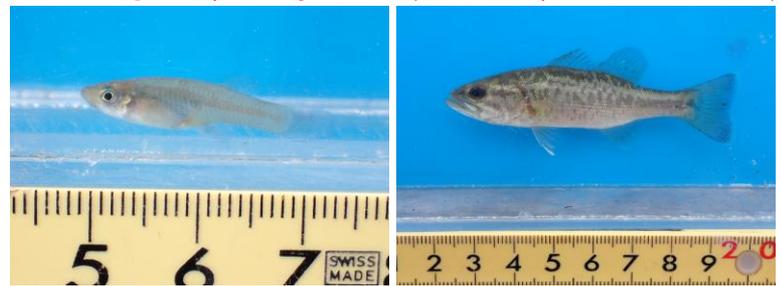
□魚類：10科21種を確認。重要種として、流れが緩やかでヨシ、ヒメガマ等の抽水植物の陰に生息するニホンウナギ、ミナミメダカ、流れが緩やかで砂泥質の環境を好むドジョウ、トウカイコガタスジシマドジョウの4種を確認。外来種として、特定外来生物であるカダヤシ、オオクチバスの2種を確認。

No.	科	種名	現地調査		環境DNA調査	
			中上流部	下流部	中上流部	下流部
1	ウナギ科	ニホンウナギ	1個体	1個体	●	●
2	コイ科	コイ（野生型）				●
-		コイ（飼育型）				●
-		コイ（型不明）		12個体		
3		フナ属 ^{注2)}	4個体	3個体	●	●
4		タイリクバラタナゴ			●	●
5		オイカワ			●	
6		ウグイ	3個体		●	●
7	タモロコ	1個体				
-	タモロコ属 ^{注3)}				●	
8	ドジョウ科	ドジョウ			●	●
-		ドジョウ（中国大陸系統）				●
9		トウカイコガタスジシマドジョウ	6個体			
-		シマドジョウ属 ^{注4)}			●	●
10	ナマズ科	ナマズ		1個体		
-	ナマズ属 ^{注5)}			●	●	
11	アユ科	アユ				●
12	ボラ科	ボラ				●
13	カダヤシ科	カダヤシ*	10個体	29個体	●	●
14	メダカ科	ミナミメダカ	2個体	1個体		
-		メダカ属 ^{注6)}			●	●
15	サンフィッシュ科	オオクチバス*	2個体		●	●
16	ハゼ科	マハゼ				●
17		スマチチブ	1個体	11個体		
-		チチブ属 ^{注7)}			●	●
18		ゴクラクハゼ			●	●
19		スミウキゴリ			●	●
20		ウキゴリ	1個体	1個体	●	●
21	ピリンゴ		8個体		●	
計	10科	21種	10種 31個体	9種 67個体	15種	20種

- 注1) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。（特定外来生物には「*」を付した）
- 注2) ギンブナ/キンブナ/オオキンブナ/ニゴロブナ/キンギョ/フナ属の一種（琉球列島）の可能性がある配列のためフナ属とした。
- 注3) タモロコ/ホンモロコの可能性のある配列のため、タモロコ属とした。採捕調査ではタモロコが確認されている。
- 注4) ビワコガタスジシマドジョウ/トウカイコガタスジシマドジョウの可能性のある配列のためシマドジョウ属とした。
- 注5) ナマズ/イワトコナマズ/タニガワナマズ/ ナマズ属の一種（海外）の可能性のある配列のためナマズ属とした。
- 注6) ミナミメダカ/ヒメダカ（品種改良）の可能性のある配列のため、メダカ属とした。
- 注7) スマチチブ/ナガノゴリ/チチブの可能性のある配列のためチチブ属とした。



ニホンウナギ トウカイコガタスジシマドジョウ



カダヤシ* オオクチバス*

河川環境の概況（現地調査：底生動物）

□底生動物：24科39種を確認。重要種としては、トゲナシヌマエビ 1種を確認。外来種として、スクミリンゴガイ、フロリダマミズヨコエビ、特定外来生物のアメリカザリガニの3種を確認。

No.	科	種名	中上流部		下流部	
			個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	1	16559	2	21312
2	サカマキガイ科	サカマキガイ			2	31
3	オヨギミズ科	オヨギミズ科	10	52		
4	ミズミズ科	エラオイミズミズ			2	1
5		ユリミズ	6	20	81	344
-		ミズミズ科	26	38	258	225
6	ヒラタビ科	ハバヒロビ			1	4
7		ヌマビ			4	22
8	ナガレビ科	ナガレビ科			3	10
9	カマカヨコエビ科	モリノカマカ			16	10
10	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	12	16		
11	ミズムシ科 (甲)	ミズムシ (甲)			2	3
12	コツプムシ科	コツプムシ属			85	385
13	アミ科	クオイサザアミ			44	166
14	ヌマエビ科	ミズレヌマエビ	37	1957	40	2251
15		トゲナシヌマエビ	1	161		
16	テナガエビ科	テナガエビ			7	2949
17	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ *	64	468676	1	5003
18	モクズガニ科	モクズガニ	4	3905	1	859
19	コカゲロウ科	フタバカゲロウ属			1	0
20		ウスイロフトヒゲコカゲロウ	3	12		
21	イトトンボ科	アオモンイトトンボ属	1	5	18	202
22		クロイトトンボ属			1	12

No.	科	種名	中上流部		下流部	
			個体数	湿重量	個体数	湿重量
23	ヤンマ科	ギンヤンマ	1	782	3	2470
-		ギンヤンマ属	2	174	5	717
24	トンボ科	コフキトンボ			11	512
25		シオカラトンボ	15	1573	8	1663
26	アメンボ科	アメンボ	8	343		
27	ミズムシ科 (昆)	クロチビミズムシ			46	92
-		チビミズムシ属			98	177
28		オモナガコミズムシ			1	7
-		コミズムシ属			1	9
-		ミズムシ科 (昆)			21	29
29	ムネカクトビケラ科	ムネカクトビケラ属			1	0
30	ツトガ科	イネミズメイガ属	1	1	1	1
31	ユスリカ科	ダンダラヒメユスリカ属			1	0
32		ユスリカ属			18	39
33		ナガゴブナシユスリカ属			2	1
34		ツヤユスリカ属			1	0
35		ハモンユスリカ属			34	10
36		カユスリカ属			1	1
37		アシマダラユスリカ属	1	0		
38		カスリモンユスリカ属			1	0
39		ヒゲユスリカ属	1	0	15	5
	24科	39種	194	494274	838	39522
				16種		33種

注) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。
(特定外来生物には「*」を付した)



トゲナシヌマエビ



アメリカザリガニ*

河川環境の概況（現地調査：植物）



□植物：39科94種を確認。重要種としては、溜池、水田等に生育する**ミズオオバコ**（水草）、小河川や水路等の浅い水中に生育する**ナガエミクリ**（抽水植物）の2種を確認。外来種は確認されたが、特定外来生物は確認されなかった。

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	トクサ科	スギナ	●	●
2	トチカガミ科	オオカナダモ	●	●
3		ミズオオバコ	●	●
4	ヒルムシロ科	ヒルムシロ属	●	●
5	ヤマノイモ科	ヤマノイモ		●
6	ユリ科	シンテッポウユリ		●
7	ヒガンバナ科	ノビル	●	●
8		ヒガンバナ		●
9	ツユクサ科	ツユクサ	●	
10		ノハカタカラクサ	●	
11	ガマ科	ナガエミクリ	●	
12		ヒメガマ	●	●
13	イグサ科	コゴメイ		●
14	カヤツリグサ科	シオクグ		●
15		アゼスゲ		●
16		カヤツリグサ		●
17		ハマスゲ	●	
18		テンツキ	●	
19		カンガレイ	●	
20		アブラガヤ	●	
21	イネ科	メリケンカルカヤ		●
22		ヤマアワ		●
23		ギョウギシバ	●	●
24		メヒシバ	●	●
25		オヒシバ	●	●
26		シナダレスズメガヤ	●	●
27		コスズメガヤ		●
28		チガヤ	●	●
29		ススキ	●	●
30		ヌカキビ	●	
31		キシウスズメノヒエ	●	
32		タチスズメノヒエ		●

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
33	イネ科	チカラシバ	●	●
34		ヨシ		●
35		アキノエノコログサ	●	●
36		キンエノコロ	●	●
37		セイパンモロコシ	●	●
38		ネズミノオ		●
39		マコモ	●	
40	アケビ科	アケビ		●
41	ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	●	●
42	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ	●	●
43	ブドウ科	ヤブカラシ	●	●
44	マメ科	クサネム	●	●
45		アレチヌスビトハギ	●	●
46		メドハギ	●	●
47		シロツメクサ	●	●
48	ニレ科	アキニレ		●
49	アサ科	ムクノキ	●	●
50		ユノキ	●	●
51		カナムグラ	●	●
52	クワ科	ヤマグワ	●	●
53	バラ科	ビワ		●
54		ノイバラ	●	●
55		ナワシロイチゴ	●	●
56	ウリ科	カラスウリ		●
57	ニシキギ科	ツルウメモドキ		●
58		マサキ		●
59	トウダイグサ科	コニシキソウ	●	●
60		オオニシキソウ	●	●
61		アカメガシワ	●	●
62	コミカンソウ科	コミカンソウ		●
63	ヤナギ科	ジャヤナギ		●
64	ミゾハギ科	ホソバヒメミゾハギ	●	●

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
65	アカバナ科	ヒレタゴボウ		●
66		コマツヨイグサ	●	●
67	タデ科	イタドリ	●	●
68		ヒメツルソバ	●	●
69		ヤナギタデ	●	●
70		シロバナサクラタデ	●	●
71		オオイヌタデ	●	●
72		ミゾソバ	●	●
73	ヒユ科	イノコヅチ	●	●
74		ツルノゲイトウ		●
75	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ		●
76	スベリヒユ科	ヒメマツバボタン	●	●
77	アカネ科	ヘクソカズラ	●	●
78	キョウチクトウ科	ガガイモ	●	●
79	ヒルガオ科	ヒルガオ	●	●
80		ハマヒルガオ		●
81		マメアサガオ		●
82		アメリカソライロアサガオ		●
83		ホシアサガオ		●
84	ナス科	ヒロハフウリンホオズキ	●	
85		ワルナスビ	●	
86	オオバコ科	キクモ	●	●
87	シソ科	ハマゴウ		●
88	キク科	ヨモギ	●	●
89		ノコンギク	●	●
90		コシロノセンダングサ	●	●
91		コセンダングサ	●	●
92		ヒメムカシヨモギ	●	●
93		セイタカアワダチソウ	●	●
94	スイカズラ科	スイカズラ	●	●
	39科	94種	64種	78種



ミズオオバコ



ナガエミクリ

注) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。

河川環境の概況 (現地調査：鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類)



- **鳥類**：18科27種を確認。重要種は**バン1種**を確認。外来種は確認されなかった。
- **両生類**：1科1種を確認。重要種、外来種は確認されなかった。
- **爬虫類**：2科2種を確認。重要種は確認されなかった。外来種として特定外来生物である**ミシシippアカミミガメ**を確認。
- **哺乳類**：3科3種を確認。重要種、外来種は確認されなかった。

鳥類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	カモ科	ヒドリガモ		●
2		マガモ		●
3		カルガモ		●
4		ハシビロガモ		●
5		コガモ		●
6	カイツブリ科	カイツブリ	●	●
7	ハト科	カワラバト(ドバト)	●	●
8		キジバト	●	●
9	ウ科	カワウ	●	●
10	サギ科	アオサギ	●	●
11		ダイサギ	●	●
12		コサギ	●	●
13	クイナ科	バン	●	●
14		オオバン	●	●
15	シギ科	イソシギ	●	●
16	タカ科	トビ	●	●
17	カワセミ科	カワセミ	●	●
18	モズ科	モズ	●	●
19	カラス科	ハシボソガラス	●	●
20	ヒバリ科	ヒバリ	●	●
21	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	●	●
22	メジロ科	メジロ	●	●
23	ムクドリ科	ムクドリ	●	●
24	スズメ科	スズメ	●	●
25	セキレイ科	キセキレイ	●	●
26		ハクセキレイ	●	●
27	ホオジロ科	ホオジロ	●	●
	18科	27種	16種	22種

注) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。
(特定外来生物には「*」を付した)

両生類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	アマガエル科	ニホンアマガエル	●	●
	1科	1種	1種	1種

爬虫類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ*	●	●
2	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	●	●
	2科	2種	2種	1種

哺乳類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	モグラ科	モグラ属の一種	●	●
2	イヌ科	タヌキ	●	●
3	イタチ科	イタチ属の一種	●	●
	3科	3種	3種	2種



ミシシippアカミミガメ*



河川環境の概況（現地調査：昆虫）

□昆虫：46科72種を確認。重要種としては、アキアカネ 1種を確認。外来種は確認されなかった。

No	科	種名	江川			
			中上流部		下流部	
			任意	ライト	任意	ライト
1	イトトンボ科	アジアイトトンボ	●			
2		アオモンイトトンボ	●			
3	カワトンボ科	ハグロトンボ	●			
4	ヤンマ科	ギンヤンマ	●		●	
5	トンボ科	シオカラトンボ	●			
6		ウスバキトンボ	●		●	
7		ナツアカネ	●		●	
8		アキアカネ	●		●	
9		ノシメトンボ	●			
10		ベニトンボ	●		●	
11	カマキリ科	ハラビロカマキリ	●			
12		オオカマキリ			●	
13	キリギリス科	ホシササキリ	●			
14		クビキリギリス	●		●	
15	マツムシ科	カンタン	●		●	
16		アオマツムシ			●	
17	コオロギ科	エンマコオロギ	●			
18		ツツレサセコオロギ	●		●	
19	バッタ科	マダラバッタ			●	
20		トノサマバッタ	●			
21	イナゴ科	ハネナガイナゴ			●	
22		コバネイナゴ	●			
23	オンブバッタ科	オンブバッタ	●		●	
24	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	●		●	
25	ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ	●			
26	カスミカメムシ科	ウスモンミドリカスミカメ			●	
27	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	●			
28	ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ	●			
29	ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ			●	
30	ヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ	●			
31	ナガカメムシ科	ヒメナガカメムシ	●		●	
32		ジュウジナガカメムシ			●	
33	カメムシ科	アオクサカメムシ	●		●	
34	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	●			
35	ミノガ科	チャミノガ	●		●	
36	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	●		●	1

No	科	種名	江川			
			中上流部		下流部	
			任意	ライト	任意	ライト
37	シジミチョウ科	ツバメシジミ			●	
38		ウラナシシジミ	●		●	
39		ヤマトシジミ本土亜種	●		●	
40	タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	●			
41		ヒメジャノメ	●		●	
42	アゲハチョウ科	アゲハ	●			
43	シロチョウ科	モンキチョウ	●			
44		キタキチョウ	●		●	
45		モンシロチョウ	●		●	
46	ツトガ科	シロオビノメイガ	●			
47	シャクガ科	ウンモンオオシロヒメシャク			●	
48	スズメガ科	ホシホウジャク	●		●	
49	ヤガ科	ウスイロアカフヤガ			●	
50	ユスリカ科	ハイイロユスリカ			●	
51	ミズアブ科	アメリカミズアブ	●			
52	アシナガバエ科	アシナガキンバエ	●			
53	クロバエ科	ツマグロキンバエ	●			
54	イエバエ科	ヒメクロバエ	●			
55		モモグロオオイエバエ	●			
56	ニクバエ科	ホリニクバエ	●			
57	キドリバエ科	コガネオオハリバエ	●			
58	コガネムシ科	アオドウガネ	●			
59	テントウムシ科	ナナホシテントウ	●		●	
60		ヒメカメノコテントウ	●			
61		ベダリアテントウ	●			
62	ゾウムシ科	ヤサイゾウムシ	●			
63	ハバチ科	ハグロハバチ			●	
64	アリ科	ウメマツオアリ	●		●	
65		クロヤマアリ	●		●	
66		トビイロケアリ	●			
67		オオズアリ		6		
68		アミメアリ	●			
69		トビイロシワアリ			●	
70	コツチバチ科	マメコガネコツチバチ	●			
71	ミツバチ科	セイヨウミツバチ	●			
72	ハキリバチ科	ホソバトガリハナバチ	●			
	46科	72種	58種	1種 6個体	36種	1種 1個体

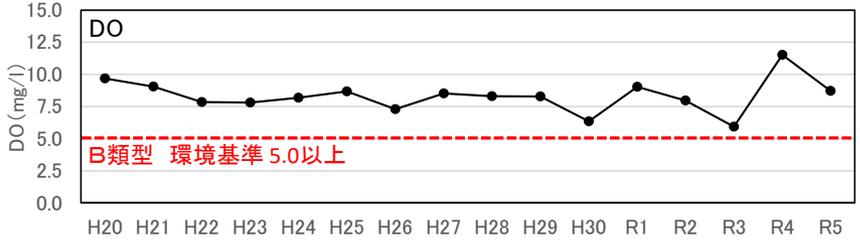
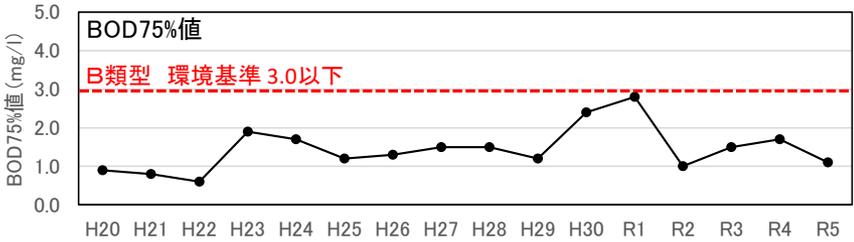
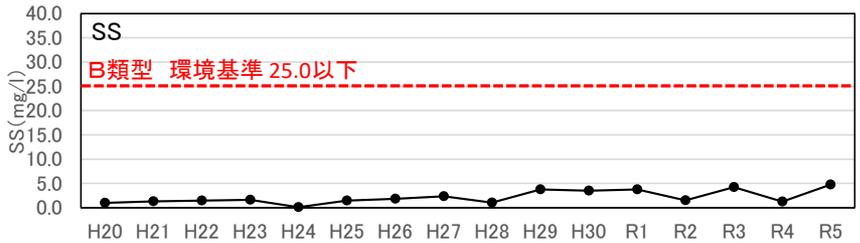
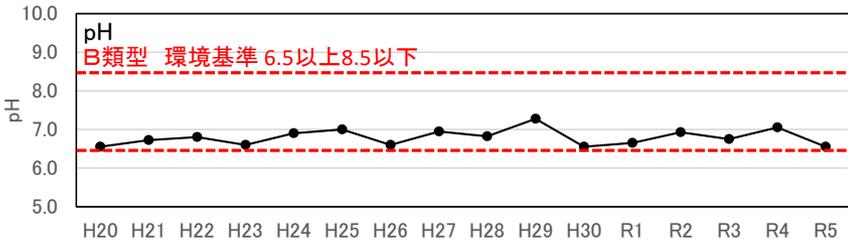
注) オレンジセルは重要種を示す。



アキアカネ

河川水質の推移

- 江川では、江川橋(県道)において、伊勢市により定期的な水質調査(1年に4回)が行われている。
- 江川には生活環境の保全に関する環境基準による類型指定はないが、江川の環境はB類型の環境基準を満たしている。
- なお、近隣河川の笹笛川、外城田川の上流はB類型に指定されている。
- また、近隣河川の大堀川においても類型指定はないが、概ねB類型の環境基準を満たしている。



項目	現状	課題
<p>洪水</p> <p>高潮</p> <p>津波</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>江川橋(県道)から県管理区間上流端までの区間の河川改修が、当面計画に基づき完了している。</u> ■ <u>河川改修完了後は県管理区間において、家屋浸水被害は発生していない。</u> ■ <u>河道内に土砂の堆積、植生の繁茂が見られる箇所がある。</u> ■ <u>アンケート調査では、堆積土砂や植生の繁茂に不安を感じる意見が多く見られた。</u> ■ <u>高潮対策として整備された江川排水機場は完成から約20年が経過している。また、L2地震に対する耐震性能を満足していない。</u> ■ <u>アンケート調査では、大規模地震に対する不安が多く、江川水機場の耐震対策を望む意見が多く見られた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 土砂堆積、河道内樹木による河積阻害 ■ 江川排水機場の老朽化及び耐震性能不足
<p>河川利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>利水としては取水は行われていない。</u> ■ <u>アンケート調査では回答者の5割が河川を利用しており、散歩やジョギング目的の利用が半数を占めていた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 管理用道路の維持管理
<p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上流から河口部にかけて全体的に流速は緩やかである。 ■ ヨシ・ヒメガマ等の抽水植物、ミズオオバコ等の水草が群落を形成しており、様々な生物の生息場となっていた。 ■ 水生生物の上下流への移動が困難な落差の大きい横断工作物はない。 ■ <u>アンケート調査では、江川の自然環境の保全を望む声も見られた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 抽水植物・水草の保全 ■ 上下流の連続性の維持



目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
- 6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]**
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

河川整備基本方針（原案）の概要（計画規模）



□ 治水の目標(河川整備基本方針(案))

河川整備基本方針（案）における目標は、河川の重要度指標（流域面積、想定氾濫区域内資産額など）、県内他河川とのバランスを考慮し、**年超過確率1/30**とする。

三重県における基本方針計画規模の評価指標

		江 川	大堀川 (1/30)	1/30以上	1/50以上	1/80以上	1/100以上
流域面積 (km ²)		3.7	16.9	20未満	20～300	300～600	600以上
市街地面積 (km ²)		0.8	2.5	10未満	10～20	20～50	50以上
想定氾濫区域内※	面積 (ha)	87.4	148	500未満	500～ 2,000	2,000～4,000	4,000以上
	宅地面積 (ha)	1.8	4.1	80未満	80～240	240～1,000	1,000以上
	人口 (千人)	0.004	0.2	10未満	10～30	30～100	100以上
	資産額 (億円)	42.69	98.6	200未満	200～2,000	2,000～5,000	5,000以上
	出荷額 (億円)	-	-	100未満	100～1,000	1,000～3,000	3,000以上

※ 想定氾濫区域内の数値はH30浸水想定検討時の解析結果より

河川整備基本方針（原案）の概要（計画降雨）



- 気候変動を考慮した計画雨量の検討方針
 - 「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言や、国の見直し事例では、気温2℃上昇時の降雨量変化倍率を1.1倍とし、降雨データは2010年までのデータを使用している
 - 以上より、三重県においても **2010年までの降雨データを使用し、1.1倍した雨量を計画に用いる** こととする。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言

表-2 降雨量変化倍率

	降雨継続時間 12時間以上	降雨継続時間 3時間以上12時間未満	降雨継続時間 3時間未満
4℃上昇	1.3	1.4	—
北海道、九州北西部	1.4	1.5	—
その他の地域 (沖縄含む)	1.2	1.3	—
2℃上昇	1.1	1.1	1.1
北海道	1.15	1.15	1.15
その他の地域 (沖縄含む)	1.1	1.1	1.1

【適用範囲】

- ・ 4℃上昇時における降雨継続時間 12 時間未満の値は、3 時間未満では適用できない。
- ・ 雨域面積 100km² 以上について適用する。ただし、100km² 未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
- ・ 年超過確率 1/200 以上の発生頻度の降雨を対象とする計画に適用する。

【留意事項】

- ・ 降雨量変化倍率は、現在気候に対する将来気候の状態を表す。なお、4℃上昇時の降雨量変化倍率は、21 世紀末時点の将来気候であり、2℃上昇時の降雨量変化倍率については、RCP2.6 では 2040 年頃以降の気温上昇が横ばいとなることから、2040 年以降の値として適用可能。

【計算条件】

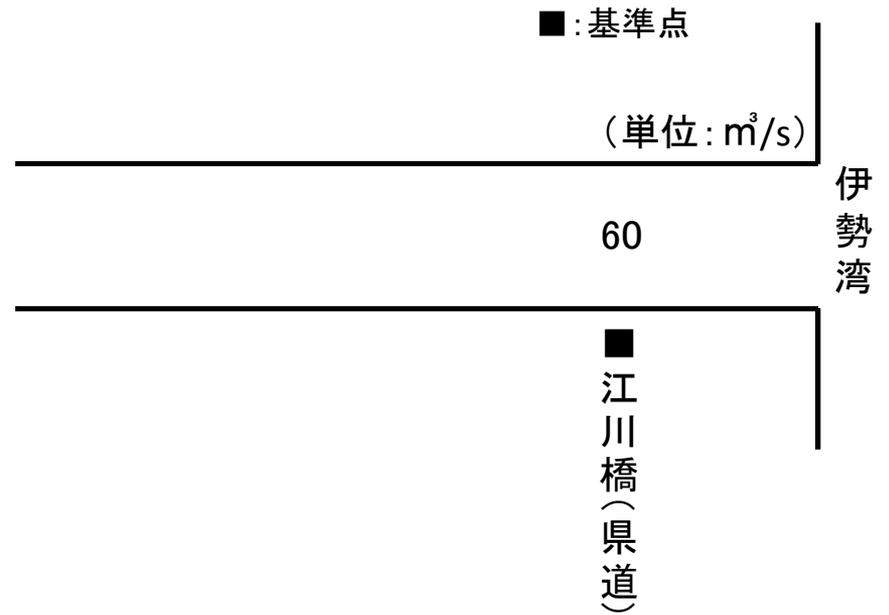
- ・ 現在気候の実験期間は、d4PDF(5 km,SI-CAT)が 1980～2011 年（中間年 1995 年）、d4PDF(5 km,yamada)が 1951～2010 年（中間年 1980 年）であり、中間年でみると 15 年の差があるが、現在の治水計画では主に戦後以降のデータを対象としているため、d4PDF(5 km,yamada)の実験期間である 1951～2010 年を基準とする。なお、1951～1980 年を基準とすると、d4PDF(5 km,SI-CAT)の降雨量変化倍率は約 0.02 倍低く評価されているが、それも考慮した上で上表のと

出典:「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言
 (令和3年4月改訂)国土交通省
 (https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/chisui_kentoukai/index.html)

河川整備基本方針(原案)の概要(基本高水流量)



	河川整備 基本方針
計画規模	1/30確率
基準地点	江川橋(県道)
流域面積	3.7km ² (うち内水域 1.6km ²)
流出係数	0.77
洪水到達時間	37分
降雨強度	112.5mm/hr × 1.1 =123.8mm/hr
流出計算手法	合理式
基本高水流量	60m ³ /s



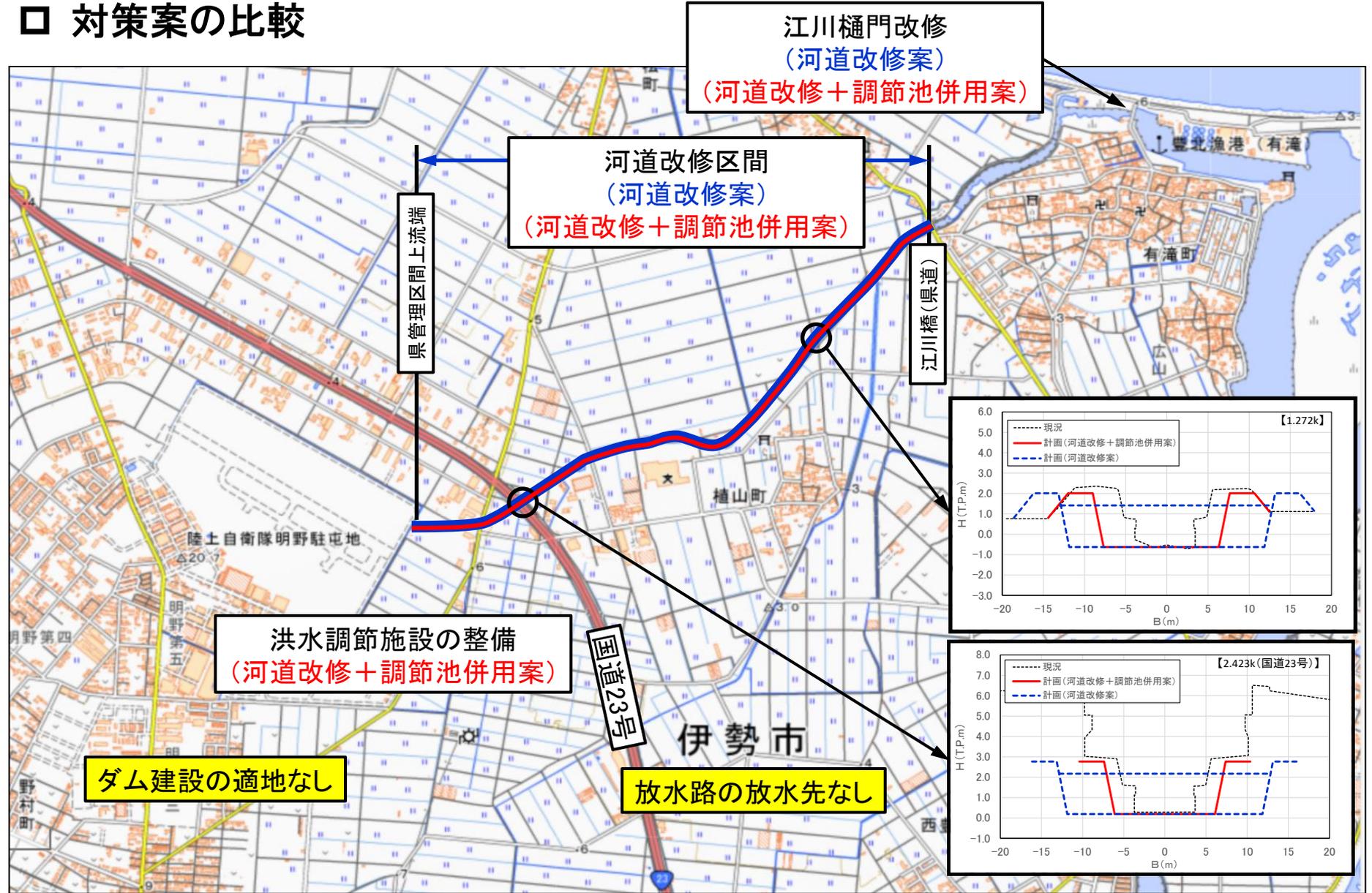
河川整備基本方針（原案）の概要（対策案比較）

□ 対策案の比較

対策	特徴	概算事業費	評価
河道改修案	引堤による拡幅等により河道の流下能力を増大させる案 川幅が現況川幅の約3倍程度となり、沿川の土地利用が一変する。国道23号橋梁の架替えが必要。	約40億円	△
河道改修＋調節池併用案	上流側に調節池を設置して河道への配分流量を減らし、国道23号橋梁の改築を避け、引堤幅を抑える案	約36億円 (河道29億円 ＋調節池7億円)	○
放水路案	河道の流下能以上の流量を放水路で分担する案。 放水路の放水先がなく、現実的ではない。	—	×
ダム案	上流域の流量をダムでカットして残りの流量を河道で分担する案。 ダム建設の適地がない平地河川であり、現実的ではない。	—	×

河川整備基本方針（原案）の概要（対策案比較）

対策案の比較



河川整備基本方針（原案）の概要（方向性）



項目	方向性
<p>洪水 高潮 津波</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>河川整備基本方針における計画規模は、河川重要度（流域面積、想定氾濫区域内資産額など）、県内他河川とのバランスを考慮して、1/30とする。</u> ● <u>気候変動を考慮した基本方針の計画規模1/30の降雨による洪水に対して、現況流下能力が不足しているため、河道改修及び洪水調節施設の整備等を実施する。</u> ● <u>超過洪水に対しては、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策（流域治水）について、関係機関と連携して推進する。</u> ● <u>排水機場の耐震対策や必要に応じて堤防の耐震対策を実施し、地震発生時における排水機場や堤防の機能の確保を図る。</u> ● L1津波に対しては、関係機関や自治体との連携と役割分担に基づき、河川管理施設等の対策を実施することにより、津波災害の防御に努める。 ● L2津波に対しては、施設対応を超過する事象として、人命が損なわれないことを最優先し、津波防災地域づくり等と一体となった総合的な津波対策を推進し、減災を目指す。
<p>河川 利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>今後の水利用の実態に応じて、関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努める。</u>
<p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 江川の有する良好な自然環境と河川景観を保全し、多様な動植物が生息・生育・繁殖する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努める。 ● <u>河川工事等により良好な河川環境への影響が懸念される場合には、代替措置や環境に配慮した工法等を採用し、環境への影響の回避と軽減に努める。</u>

河川整備基本方針（原案）の概要（計画平面図）

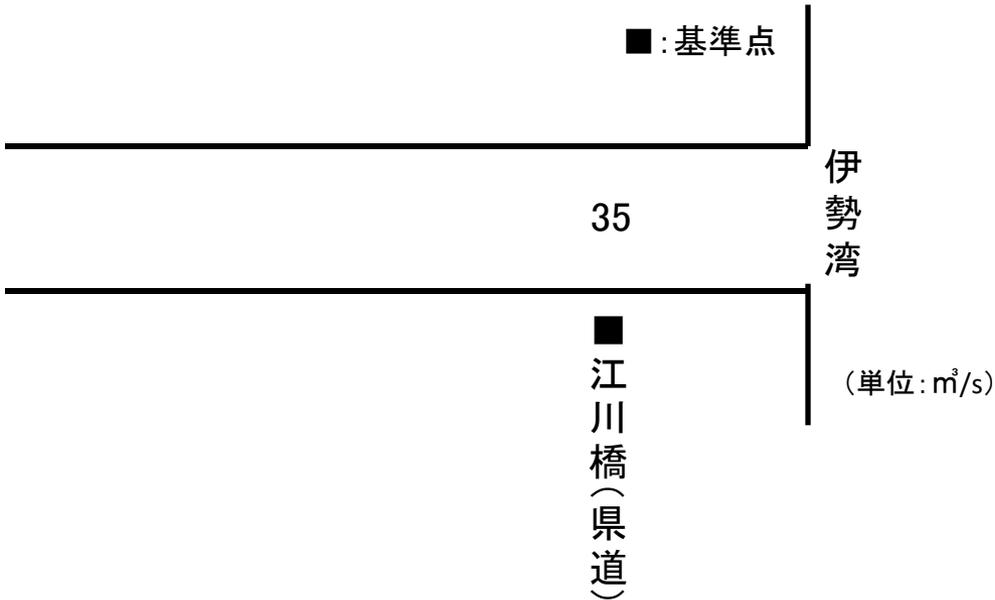


河川整備基本方針（原案）の概要（計画高水流量）

□ 計画高水流量

江川における基本高水のピーク流量は、基準点の江川橋（県道）において 60 m³/sとし、このうち洪水調節施設により25m³/sを調節して、河道への配分流量を35m³/sとする。

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
江川	江川橋（県道）	60	25	35





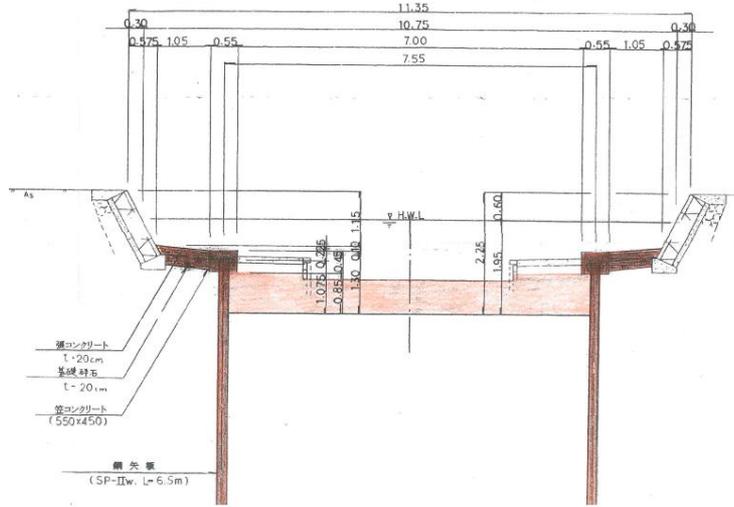
目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
- 7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]**
8. 今後の進め方 [一部更新]

河川整備計画(原案)(案)の概要(現状と課題)



■ 江川は、昭和40～50年代に河道拡幅・護岸整備が実施され、平成8年度から江川排水機場の整備と低水路の河道掘削が行われ、一定の河川改修が完了している。河道内に土砂の堆積や植生の繁茂がみられる箇所がある。



標準横断面図

河川整備計画(原案)(案)の概要(現状と課題)

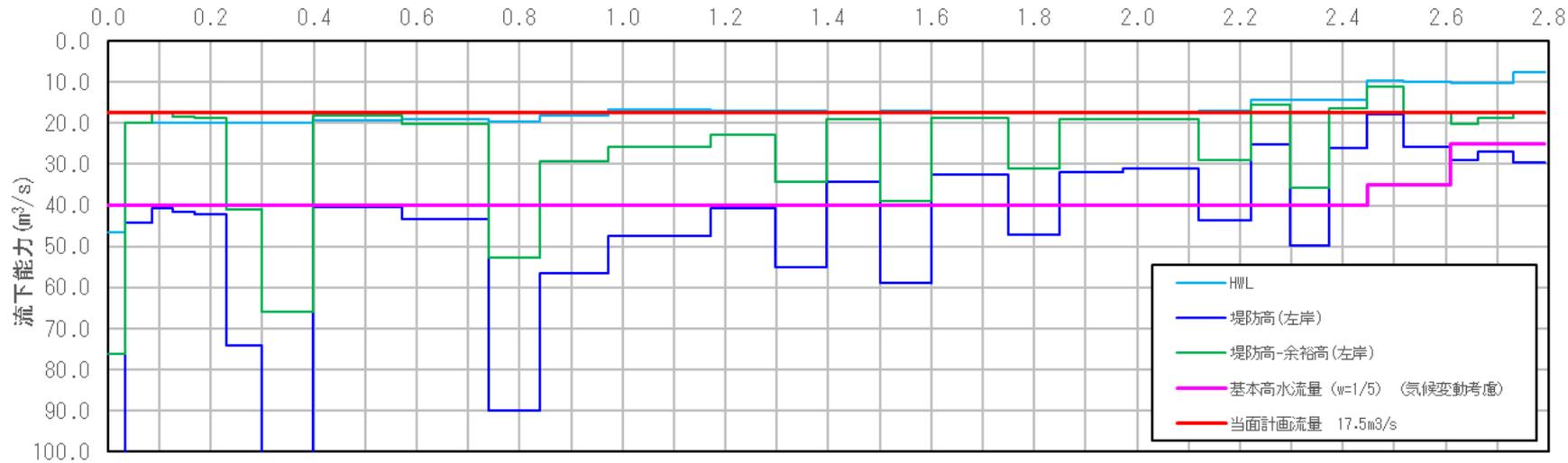
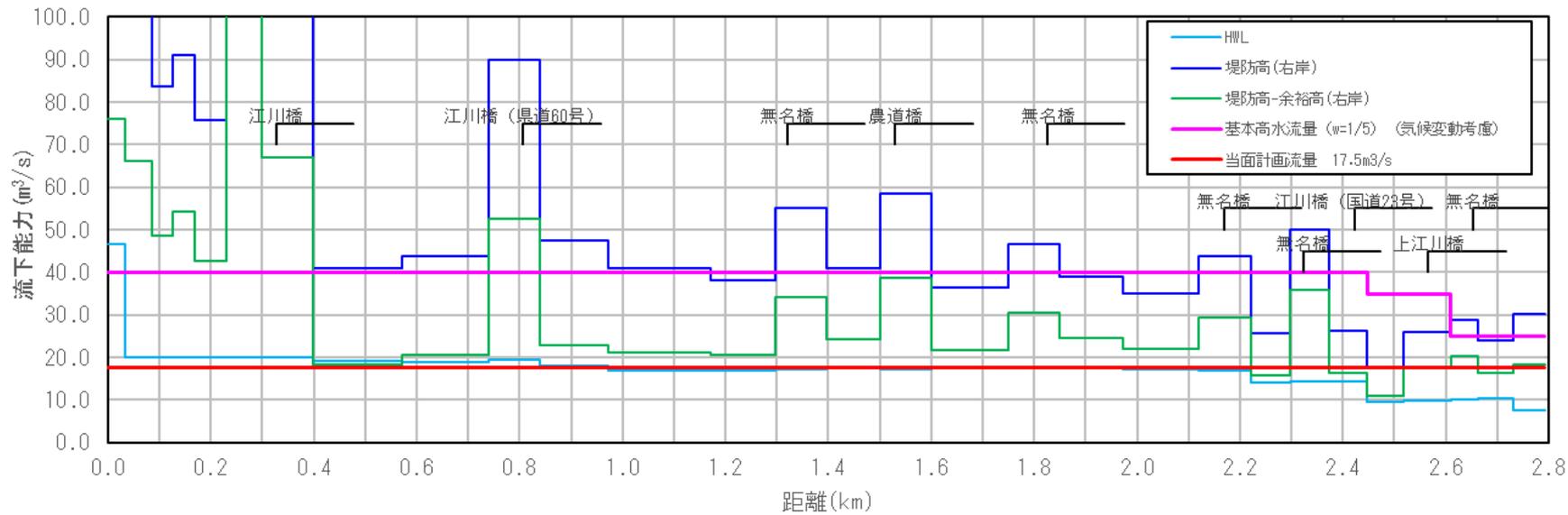


- 江川排水機場は、高潮時において降雨等が重なり江川の自然排水が阻害された場合に、雨水排水ポンプによる強制排水を行い、流域における内水被害を軽減することを目的としている。
- 建設から20年以上が経過しており、長寿命化修繕計画に基づく延命化対策が必要となっている。また、排水機場は耐震性能が不足するため、耐震対策を検討する必要がある。



河川整備計画(原案)(案)の概要(現況流下能力)

□ 現況河道の流下能力は、当面計画の計画流量17.5m³/sを計画高水位以下で流下し、住居が集まる下流域では堤防満杯で計画規模1/5程度の流量を流下することができる。

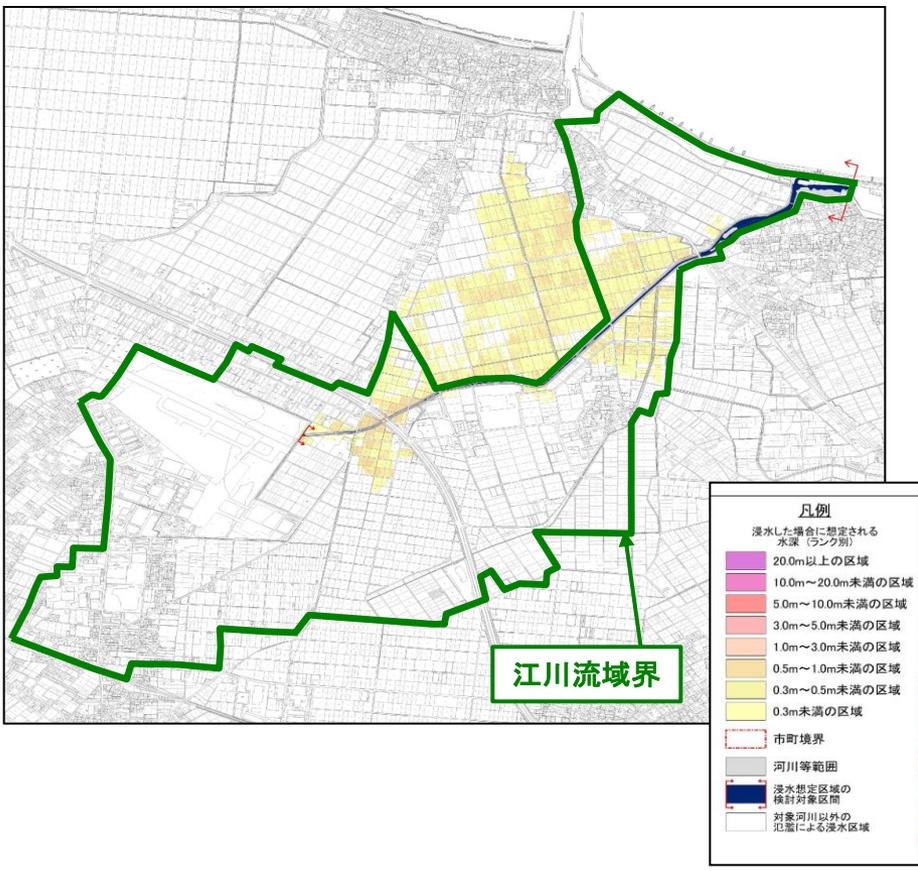


河川整備計画(原案)(案)の概要(浸水想定区域)

■ 江川の浸水想定区域図を作成する際、高頻度規模(計画規模1/30、1/10)の浸水想定区域図を作成している。両方ケースとも家屋の浸水被害は無く、中流域付近の水田の一部が浸水区域となっている。

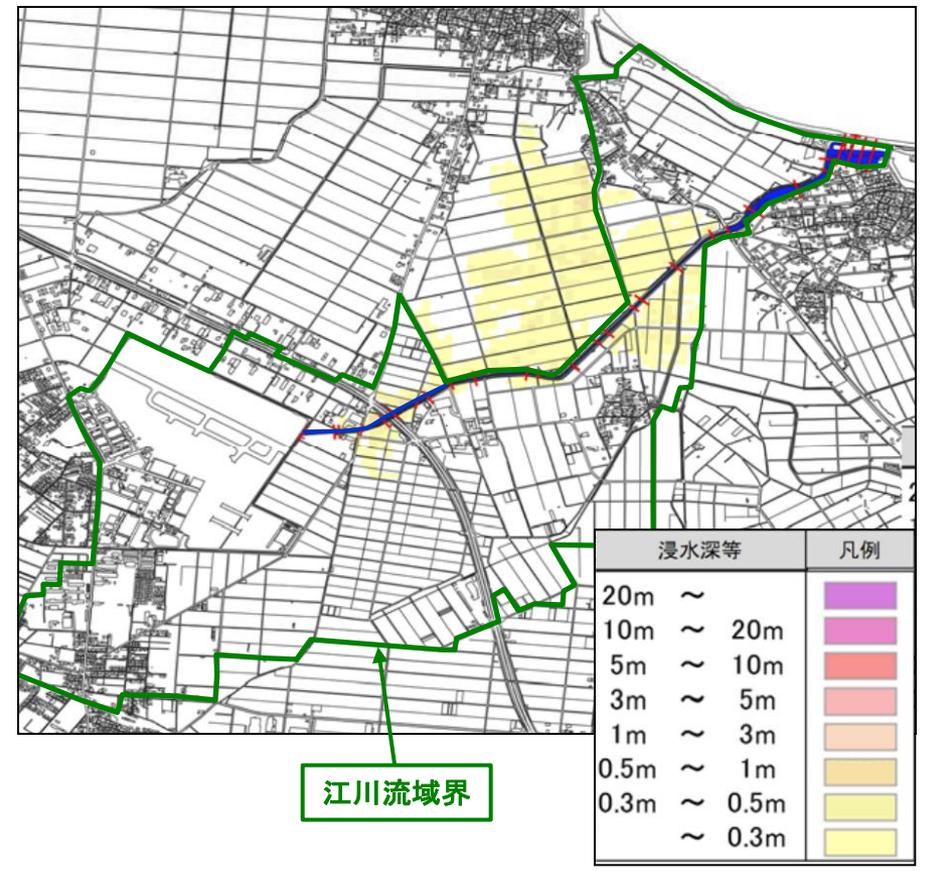
● 計画規模1/30

※気候変動後の1/17に相当



● 計画規模1/10

※気候変動後の1/7に相当





項目	方向性
洪水 高潮 津波	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>現況河道の流下能力を確保するため、河道内の堆積土砂撤去や樹木伐採等、適切な維持管理に努める。</u> ● <u>江川排水機場や江川樋門について、長寿命化修繕計画に基づき適切な維持管理に努める。</u> ● <u>洪水による被害軽減を図るため、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策（流域治水）について、関係機関と連携して推進する。</u> ● <u>江川排水機場の耐震対策や、必要に応じて堤防の耐震対策を実施し、地震発生時における河川管理施設の機能の確保を図る。</u>
河川 利用	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>今後の水利用の実態に応じて、関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努める。</u>
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>江川の有する良好な自然環境と河川景観を保全し、多様な動植物が生息・生育・繁殖する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努める。</u> ● <u>河川内の堆積土砂を撤去する際は、現在の水際環境を維持するように配慮するなど、魚類や底生動物の生息環境の保全に努める。</u> ● <u>河川工事等により良好な河川環境への影響が懸念される場合には、代替措置や環境に配慮した工法等を採用し、環境への影響の回避と軽減に努める。</u>

河川整備計画(原案)(案)の概要(整備メニュー)

整備計画区間

The main map shows the Kawa River (江川) flowing through the city of Ise (伊勢市). A blue line indicates the river's course. A red circle on the map marks the location of the Kawa Drainage Pumping Station (江川排水機場). A red double-headed arrow indicates the prefectural management section (江川 県管理区間) from 0.0k to 2.8k. A vertical red line marks the location of the Aino Port (有湊). A red box at the bottom right indicates that seismic reinforcement of levees will be implemented as needed. A vertical label '国道23号' (National Route 23) is also present.

**江川排水機場
耐震補強**

想定される最大規模の地震に対する耐震補強を実施する。

**江川 県管理区間
(0.0k~2.8k)**

**必要に応じて堤防
耐震を実施する**

必要に応じた堆積土砂や河道内樹木等を除去する。

河川整備計画(原案)(案)の概要(流域治水)



洪水による被害の軽減を図るため、流域のあらゆる関係者の協働による総合的かつ多層的な治水対策“流域治水”を推進する。

① 氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策

- ・江川の堆積土砂撤去、江川排水機場の延命化
- ・田んぼダムの普及・啓発

② 被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の策定など安全なまちづくりの検討

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

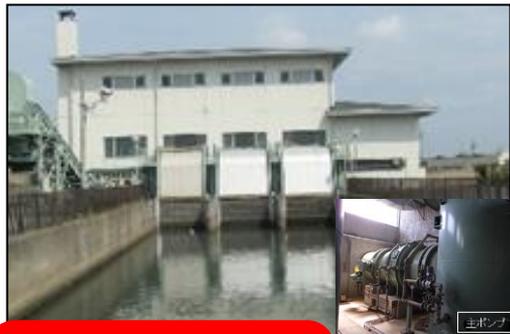
- ・防災情報の提供(みえ防災ナビ、SNSによる情報発信など)
- ・水害リスク情報の空白域の解消(ハザードマップの作成)
- ・危機管理型水位計による水位情報の発信
- ・排水ポンプ車の配備・運用



防災情報の提供(みえ防災ナビ)



水位情報の発信(江川)



江川排水機場の延命化



田んぼダムの普及・啓発



排水ポンプ車の配備・運用



目次

1. これまでの経緯 [一部更新]
2. 流域の概要 [変更なし]
3. 前回流域委員会での意見・回答 [新規]
4. 第1回住民アンケート調査結果 [新規]
5. 現状と課題（治水、利水、環境） [一部更新]
6. 河川整備基本方針（原案）の概要 [新規]
7. 河川整備計画（原案）（案）の概要 [新規]
8. 今後の進め方 [一部更新]

■今後の進め方 <江川>

